

## 看護科 (2年次)

## 2026年度 シラバス目次

科目名	項
健康とスポーツ	3
宗教と生命倫理	5
医療応用英語	7
病態治療学Ⅶ 女性生殖器	10
病態治療学Ⅷ 小児	12
病態治療学Ⅸ 精神	14
臨床栄養学	16
社会福祉	18
チーム医療論	25
看護における薬物療法	27
臨床判断シミュレーション演習Ⅰ	29
看護過程基礎演習	31
地域で療養する人を支えるⅠ 地域包括ケアシステム	34
地域で療養する人を支えるⅡ 地域で暮らすことを支える	36
地域で療養する人を支えるⅢ 在宅看護技術	38
地域で療養する人を支えるⅣ 事例から学ぶ	40
病気と共に生きる成人を支えるⅡ 慢性期	42
病気と共に生きる成人を支えるⅢ クリティカルケア	44
病気と共に生きる成人を支えるⅣ 周術期	46
病気と共に生きる成人を支えるⅤ がん看護、緩和ケア	48

科目名	項
高齢者の健康を支えるⅠ 健康障害をもつ高齢者を支える看護	50
高齢者の健康を支えるⅡ もてる力を活かす看護技術	52
高齢者の健康を支えるⅢ 事例から学ぶ	54
子どもと健康を支えるⅠ 病気の子どもと家族を支える看護	56
子どもと家族を支えるⅡ 子どもの力を引き出す看護技術	58
子どもと家族を支えるⅢ 子どもの命を守る臨床判断	60
女性と家族を支えるⅠ 妊娠期、分娩期	62
女性と家族を支えるⅡ 産褥期、新生児期	64
女性と家族を支えるⅢ 事例から学ぶ	66
こころを支えるⅠ こころのとらえ方と技術	68
こころを支えるⅡ 社会で暮らす	70
こころを支えるⅢ 事例から学ぶ	72
基礎看護学実習Ⅱ 看護過程の展開	74
成人看護学実習 病気の予防をする	78
老年看護学実習 在宅や施設で生活する高齢者を支える	80
小児看護学実習Ⅰ その子らしく育つを学ぶ	84
母性看護学実習Ⅰ 生と性を学ぶ	87



キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 2年次
科目名	健康とスポーツ
担当者	石田 直章、岡田 摩紀
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義・実技
教科書・参考書	

授業概要と目的
人々が生涯を通じて健康や生涯の状態に応じた生活が送れるようレクリエーションや身体を動かすことの楽しみ さらに体験を通して活動が身体機能の回復・維持、精神機能の活性化、QOLの向上などに及ぼす影響を理解する。また、看護師としての自己の健康管理を活動を通して学ぶ。健康科学講師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。
関連する学科のDP
<ul style="list-style-type: none"> <li>多様性や柔軟性を備えた人間性と科学的根拠を用いた臨床判断能力</li> <li>看護の場における健康上の課題を明確にし、看護実践できる能力</li> </ul>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」	「授業内容」	担当者	
		一般目標 (GIO)	到達目標 (SBOs)		
1	前期	1. 身体活動の基礎、健康づくりの意義と運動の効果を理解する。(4月7日)	1) 日常生活での運動量の確認、エネルギー代謝を述べる。	石田	
2	前期		2) 地域における健康づくりの実際(フロアー)を実施する。		
3	前期	2. 機能測定を理解する。 (現状の体力把握と維持、増進)(4月14日)	1) 握力、柔軟性、平衡性、高齢期における測定(フロアー)を行う。		
4	前期		2) 測定結果による判定、プロフィールの作成、機能測定評価をする。		
5	前期	3. 生活習慣病予防のための身体活動強度(4月21日)を理解する。	1) 効果的な運動強度、運動内容、METsの計算を述べる。		
6	前期		2) 自己管理のための運動紹介(フロアー)を実施する。		
7	前期	4. 運動強度による心拍測定(4月28日)を学ぶ。	1) トレッドミル歩行、エアロバイク時の心拍測定(リハ室)を行う。		岡田
8	前期		2) 運動強度別におけるグラフ作成ができる。		
9	前期	5. 医療現場における運動指導の実際(5月12日)を理解する。	1) 特定保健指導、ロコモティブシンドローム、フレイル予防の実際を述べる。		
10	前期		2) 自体重での筋肉運動、レジスタンス運動(フロアー)を実施する。		

11	前期	6. 介護予防のための運動支援を学ぶ(5月19日)	1) ボッチャ体験をする。(フローア)	岡田
12	前期		2) 簡単エアロビクス、カウントの理解と発表(フローア)を行う。	
13	前期	7. 座位での頭と身体を使ってのレクリエーションを学ぶ(6月2日)	1) 座位での高齢者の健康活動を体験する。	
14	前期		2) 介護予防のための運動内容の作成と発表を行う。	
15	前期	1) 授業総括 2) 科目試験(60分)(6月9日)		
成績評価方法		筆記試験および演習で100点とする。		
準備学習など		運動ができる服装で出席する、シューズ、タオル、水分、筆記用具を持参のこと		
関連科目				
留意事項				

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 2年次
科目名	宗教と生命倫理
担当者	野村 斉史 小山 儀秋
単位数(時間数)	1単位 (15時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	系統看護学講座 別巻 看護倫理 医学書院

授業概要と目的

人は何かを心の拠り所にし、自分自身の課題を見出したり、生きるときの支えとしている場合がある。宗教への考え方は人それぞれであり、誰かに強制的に教えられる場合もあるが、日本人のように無宗教で葬儀や人生の岐路に宗教の考え方を取り入れて生活している場合もある。その宗教の考え方や特徴を知ることが、人間の存在・価値観・ものの見方を理解し、人々の価値観やいつの間にか形成されていく倫理観へつながることを学ぶ科目とする。臨床の場面において、様々な生命倫理的問題に直面するため、生命に対する理解を深め、一人一人が考え、判断し、行動するための生命や生きるとはどういうことなのかを考える科目である。宗教家・教育学講師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。

関連する学科のDP

- ・命を尊び、一人ひとりがかけがえのない存在であることを理解できる能力
- ・何事にも誠実に対応できる、倫理的判断に基づいた行動力

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	・宗教と現代社会とのつながりを理解	・宗教と現代社会とのつながりを説明できる。	野村 斉史
2	前期	・ユダヤ教・キリスト教・イスラム教を理解する。	・ユダヤ教・キリスト教・イスラム教を説明できる。	
3	前期	・仏教を理解する。	・仏教を説明できる。	
4	前期	倫理学の基本的な考え方 ・倫理とは何かを学ぶ。 ・義務論と帰結主義を学ぶ。	・倫理学の概念について説明できる。 ・義務論帰結主義の問題点を考えることができる。 ・これまでの経験からナラティブについて説明できる。	

5	前期	倫理学の基本的な考え方を学ぶ。 ・生命倫理とは何か、歴史、4原則について学ぶ。 ・インフォームドコンセントについて学ぶ。 ・守秘義務・個人情報保護について学ぶ。	・生命倫理の概念について説明できる。 ・生命倫理の4原則について説明できる。 ・守秘義務と個人情報保護について臨地実習できをつけることが説明できる。	小山 儀秋
6	前期	性と生殖の生命倫理 ・性について学ぶ。 ・生殖について学ぶ。 ・性と生殖に対する医療的介入について学ぶ。	・性と生殖における倫理の考え方を説明できる。	
7	前期	死の生命倫理 ・死について、死生学を学ぶ。 ・告知についての課題を学ぶ。 ・終末期の治療について学ぶ。	・死と医療について説明できる。 ・家族や知人が病気になったとき、病名や告知をするかどうか説明できる。	
8	前期	科目試験(45分)		
成績評価方法		(野村)筆記試験40% (小山)筆記試験60%		
準備学習など		予習・復習を自主的に行い、積極的に学ぶ姿勢で受講してほしい。		
関連科目				
留意事項				

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 2年次
科目名	医療応用英語
担当者	達道 アポロニア
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	Vital Signs (Revised Edition) Essential English For Healthcare Professionals

<p>授業概要と目的</p> <p>臨床現場でのさまざまな対象との基本的会話や、場面に応じた会話表現の方法を学ぶ。円滑なコミュニケーションの実際に役立つ英会話の方法を学ぶ。医師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。</p>
<p>関連する学科のDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間を多角的に捉え受け入れ、良好なコミュニケーションを図れる能力</li> <li>・社会の動向を意識し、専門職業人として学び続け未来を創造できる能力</li> </ul>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	全期	Course introduction, outline, and expectations. Students and teacher introductions/activities	コースの紹介、概要、学習内容、目標を知る。 生徒と教師の紹介/アクティビティができる。	達道 アポロ ニア
2	全期	Hospital Departments	さまざまな病院の部門/医学上の問題と表現を特定/医療部門を知り表現することができる。	
3	全期	Application Forms	患者の申請書に記入する/さまざまな職業を学ぶ/申請書について話す練習をする/月、基数、序数知る/ビジネスやフォーマルな場面での人の敬称を知ることで公的な場合での表現ができる。	
4	全期	Parts of the Body plus main function	医学的症状/体の外部および内部の部分/体の部分に関する追加情報を知り表現することができる。	
5	全期	Learning about Vital signs and illnesses (Diseases)	バイタルサイン 症状と病気の特定について知り表現することができる。 文法:過去形とその使い方を知り表現することができる。 規則的な動詞と不規則的な動詞を知り表現することができる。	

6	全期	Daily Routine	病院での患者への日常生活の説明/病院のルールの学習/時刻の伝え方を知り表現することができる。 文法: 日付や時刻に関する前置詞を知り表現することができる。	違道 アポロ ニア	
7	全期	Hospital Objects	医療オブジェクト、ツールおよび機器とその使用法を知り表現することができる。 文法: 可算名詞と不規則算名詞、英語で未来時制を知り表現することができる。		
8	全期	Locations of Hospital Objects	患者に備えるために何が必要かについての対話と論議知り表現することができる。		
9	全期	Hospital Directions and Instructions	病院内での複数の患者に道案内をする/屋内で道案内をする方法を知り表現することができる。		
10	全期	Directions (Outside the Hospital)	病院の外への道案内/場所の語彙/文法: 能動態と受動態/メートル法やヤード・ポンド法の違いを知り表現することができる。		
11	全期	Medicine/ Medicine Types / Medical Procedures /Prescribing Medicine to patients and giving instructions	薬と薬の種類に関する語彙の学習をし表現することができる。 処方箋を渡し、患者に投薬量を指示する方法を知り表現することができる。 点滴、血圧測定、浣腸(患者への指示)を指示する方法を知り表現することができる。		
12	全期	Taking a Medical History	患者の病歴について尋ねる医療従事者の対話の実践/文法: For、Since、Agoの使用/動詞(現在、過去、過去分詞)のレビューについて知り表現することができる。 文法: 頻度表現/病院活動/主要な死因について知り表現することができる。		
13	全期	Hospital Procedures	患者に手術について話し理解度を確認する方法を知り表現することができる。 文法: タグの質問(質問の作り方と答え方)ができる。		
14	全期	REVIEWS/ Practicing for the Speaking Exams/Pointers for the Final Written Exams	教材に対する学生の理解度の確認 / スピーキング試験のための口頭練習 / 最終試験のための語彙ポイントの確認をすることができる。		
15	全期	1) Speaking Examination ( Oral pairwork) 2) Written Examination			
成績評価方法	出席率・授業参加率: 20% 試験最終験(スピーキング力30%、筆記・総合テスト50%)				
準備学習など	話す練習をする。 スピーキングは磨く必要があるスキルで、練習すればするほど上手くなり、最終的には語彙を適切な文脈で使用し英語で話すことです。				
関連科目					

留意事項	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 毎回の授業で教科書と英和辞典、和英辞典を持参する。</li><li>2. 授業で学んだ語彙とフレーズを、口頭と書面の両方で復習します。</li><li>3. 授業をスムーズに進めていくため、教材の前の単元の宿題をする。</li><li>4. 週に60～90分学んだ内容を復習します。<ul style="list-style-type: none"><li>・授業で取り上げられた語彙、フレーズ、対話を復習します。</li><li>・授業の前に割り当てられた宿題を終わらせてください。</li><li>・各クラスに教材や参考資料を持参してください。</li></ul></li></ol>
------	---

学科・学年	看護科 2年次
科目名	病態治療学Ⅶ 女性生殖器
担当者	原 泰夫 小川 千紗
単位数(時間数)	1単位 (15時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学9 女性生殖器 医学書院

<p>授業概要と目的</p> <p>看護は人を対象にする専門職であり、対象となる人を視て身体の中で起きていることを知り、これから起こることを予測して判断する能力が求められる。                  病態治療学では、形態機能学、病理学を基盤に看護を学ぶために必要な病気について学習し、専門科目で学ぶ看護学の基盤とする内容を学習する。                  ここでは女性生殖器の特徴的な疾患について病気のプロセスと病態生理、症状と経過、診断基準、検査データ、治療法、予後について学修し、専門科目で学ぶ看護の基盤とする。</p> <p>医師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。</p>
<p>関連する学科のDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様性や柔軟性を備えた人間性と科学的根拠を用いた臨床判断能力</li> <li>・看護の場における健康上の課題を明確にし、看護実践できる能力</li> </ul>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	前期	「乳房」 乳房の解剖と機能を理解する。	1) 乳房の構造と機能 乳房の解剖生理について説明できる	原 泰 夫
2	前期	「乳房の疾病」 腫瘍性病変(乳がん)の症状、診断、治療を理解する。	1) 乳がんのサブタイプ分類、診断、自己検診、治療(手術療法、ホルモン療法、化学療法、分子標的治療薬、放射線療法、予後) 乳がん症状、診断、治療について説明できる。	
3	前期	「乳房の疾病」 腫瘍性病変(乳がんを除く)、炎症性病変の症状、診断、治療について理解する。	2) 乳腺良性腫瘍 3) 乳腺良性腫瘍疾患 4) 発生・発育の異常 5) 炎症 上記疾患の症状・診断・治療について説明できる	
4	前期	「女性生殖器」 女性生殖器の解剖と機能を理解する。	1) 女性生殖器の構造 2) 女性生殖器の機能 女性生殖器の解剖とホルモン動態について説明できる。	小 川 千 紗
5	前期	「症状と病態生理」 女性生殖器に関わる症状と病態生理を理解する主たる原因疾患を理解する。	1) 出血 2) 帯下 3) 外陰部搔痒感 4) 自立神経症状、不定愁訴 5) リンパ浮腫 上記症状について病態を説明できる。	

6	前期	「女性生殖器の疾病」 女性生殖器の主な疾病について知り診断・治療方針について理解する。	1. 主な疾患と診断・治療・検査 1) 外陰部の疾患 ペーチェット病 2) 膣の疾患 膣炎 3) 子宮の疾患 子宮頸がん 子宮体がん 子宮内膜症 4) 卵管の疾患 5) 卵巣の疾患 卵巣嚢腫 6) 機能的疾患 月経異常 更年期障害 不妊症 7) 感染症 性感染症 8) 外科的治療 上記疾患について診断・治療について説明できる。	小川 千紗
7	前期			
8	前期	科目試験(45分)		
成績評価方法		筆記試験(100%)		
準備学習など		予定されている授業内容について教科書を読んでおくこと。		
関連科目				
留意事項				

学科・学年	看護科 2年次
科目名	病態治療学Ⅷ 小児
担当者	山崎 俊夫
単位数(時間数)	1単位 (15時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野 小児看護学 小児各論 医学書院

授業概要と目的
子どもに特徴的な疾患の病態生理、及び診断とその治療・検査について理解する。 医師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。
関連する学科のDP
・多様性や柔軟性を備えた人間性と科学的根拠を用いた臨床判断能力 ・看護の場における健康上の課題を明確にし、看護実践できる能力

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	遺伝子異常、染色体異常、新生児の生理、主な疾患について理解する。	染色体異常や体内環境により発症する先天異常、新生児疾患と病態生理、特徴的な症状と経過、診断・治療方法を説明できる。	山崎 俊夫
2	前期	こどもの主な代謝性疾患、内分泌疾患について理解する。	代謝性疾患、内分泌疾患の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断・治療方法を説明できる。	
3	前期	免疫、アレルギー疾患、リウマチ性疾患の病態を理解する。主な感染症の診断、治療について理解する。	免疫、アレルギー、リウマチ性疾患、感染症の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断・治療方法を説明できる。	
4	前期	こどもの呼吸器、循環器、消化器疾患の診断、治療について理解する。	呼吸器、循環器、消化器疾患の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断・治療方法を説明できる。	
5	前期	主な血液、造血器、悪性新生物疾患の病態、診断、治療について理解する。	血液、造血器疾患、悪性新生物疾患の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断・治療方法を説明できる。	
6	前期	腎・泌尿器、生殖器疾患、神経、精神疾患について理解する。	腎・泌尿器及び生殖器疾患、神経、精神疾患の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断・治療方法を説明できる。	

7	前期	こどもの事故、外傷について理解する。また、子供に特徴的な検査の目的、方法を理解する。	こどもの主な事故、外傷の原因と、症状、処置、治療について説明できる。また、こどもの特徴的な検査の目的とその方法について説明できる。
8	前期	1)科目試験(45分)	
成績評価方法	筆記試験(100%)		
準備学習など	予定されている授業内容について教科書を読んでおくこと。		
関連科目			
留意事項			

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 2年次
科目名	病態治療学Ⅸ 精神
担当者	内田 潤
単位数(時間数)	1単位 (15時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野 精神看護学1 精神看護の基礎 医学書院

<p>授業概要と目的</p> <p>精神障害を理解するために必要な基礎的知識である精神機能とその障がいの概念について学び、精神障害の病因・症状・診断・治療について学ぶ。また、症状が対象者のセルフケア行動にどのような影響を与えているのかを査定する知識について学び、精神に健康障害をもつ対象の看護をするのに必要な基盤となる知識と考え方を身につける。</p> <p>医師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。</p> <p>関連する学科のDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様性や柔軟性を備えた人間性と科学的根拠を用いた臨床判断能力</li> <li>・看護の場における健康上の課題を明確にし、看護実践できる能力</li> </ul>
---

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	前期	精神症状について理解する。	精神を病むことと生きることについて考える。 精神症状について述べる。	内田 潤
2	前期	精神障害の診断を分類について理解する。 統合失調症について理解する。	精神疾患の分類について説明できる。 統合失調症について説明できる。	
3	前期	気分障害と神経症性障害について理解する。	気分障害と神経症性障害について説明できる。	
4	前期	物質使用障害、その他の精神障害(一部)について理解する。	物質使用障害、その他の精神障害について説明できる。	
5	前期	その他の精神障害(残り)について理解する。	その他の精神障害について説明できる。	
6	前期	精神療法について理解する。	精神療法について説明できる。	
7	前期	薬物療法、その他の治療方法について理解する。	薬物療法、その他の治療方法について説明できる。	
8	前期	科目試験(45分)		

成績評価方法	筆記試験(100%)
準備学習など	
関連科目	
留意事項	

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 2年次
科目名	臨床栄養学
担当者	兼平奈奈
単位数(時間数)	1単位(30時間)
学習方法	講義、課題発表
教科書・参考書	系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学 医学書院 系統看護学講座 別巻 栄養食事療法

授業概要と目的
<p>生体が発育・成長して生命を維持し、健全な生命活動を営むための必須物質である栄養素と食生活の知識、栄養生理や傷病者の栄養治療の基本を学び、健康増進と傷病者の治療に貢献するアドバイスができるようになる。</p> <p>病院での管理栄養士として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。</p>
関連する学科のDP
<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様性や柔軟性を備えた人間性と科学的根拠を用いた臨床判断能力</li> <li>・看護の場における健康上の課題を明確にし、看護実践できる能力</li> </ul>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」	「授業内容」	担当者
		一般目標(GIO)	到達目標(SBOs)	
1	前期	栄養の概念と主要エネルギー産生栄養素の種類と働きを理解する。	主要エネルギー産生栄養素の働きを説明でき、アトウォーター係数を用いたエネルギー算出ができる。	兼平 奈奈
2	前期	5大栄養素の種類と、水の働きを理解する。	ビタミン、ミネラル、食物繊維、水の働きを説明できる。	
3	前期	食物の消化と栄養素の吸収について理解する。	各種栄養素の生体内における吸収形態の違いをまとめることができる。	
4	前期	栄養素の代謝と代謝産物の排泄について理解する。	各種栄養素の代謝と最終代謝産物の排泄経路をまとめることができる。	
5	前期	栄養ケア・マネジメントの目的と方法を理解する。	栄養ケア・マネジメントの一連の流れを説明できる。	
6	前期	栄養アセスメントと栄養診断の方法を理解する①	臨床診査、身体計測、体組成分析から栄養アセスメントを考察できるようになる。	
7	前期	栄養アセスメントと栄養診断の方法を理解する②	臨床検査、食事摂取量から栄養アセスメントを考察できるようになる。	

8	前期	各種疾患の病態生理の理解と、栄養食事療法の基本を理解する①	肝疾患症例の栄養アセスメントと、合併症対策の栄養食事療法を考察できるようになる。	兼平 奈奈
9	前期	各種疾患の病態生理の理解と、栄養食事療法の基本を理解する②	糖尿病症例の栄養アセスメントと、栄養食事療法を考察できるようになる。	
10	前期	各種疾患の病態生理の理解と、栄養食事療法の基本を理解する③	腎疾患症例の栄養アセスメントと、合併症対策の栄養食事療法を考察できるようになる。	
11	前期	栄養補給法、経腸栄養剤製品・静脈栄養輸液を理解する。	経腸栄養剤・静脈栄養輸液の組成特徴と合併症対策を考察できるようになる。	
12	前期	病院食の種類と意義、場面別栄養管理を理解する。	一般治療食・特別治療食の適応疾患を説明できるようになる。	
13	前期	ライフステージにおける栄養について理解する。	乳幼児期・学童期、思春期・青年期・成人期、高齢期の栄養摂取と健康との関わりを述べることができる。	
14	前期	日本人の食事摂取基準、生活習慣病の予防・食生活の改善の施策を理解する。	健康増進に貢献する食事を含めた生活の在り方をアドバイスできるようになる。	
15	前期	1) 授業総括 2) 科目試験(60分)	臨床栄養学の知識から対象者に併せたアドバイスができるようになる。	
成績評価方法		科目試験(80%) 課題レポート(20%)		
準備学習など		指定した翌週までの予習を行なっておく。授業日の内容を再確認する。		
関連科目				
留意事項				

学科・学年	看護科 2年次
科目名	社会福祉
担当者	葛谷 桂司
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	中央法規出版 社会保障入門2026 中央法規出版 社会保障の手引2026

<p>授業概要と目的</p> <p>職業リハビリテーション(就労支援)の業務において障害者、生活困窮者等社会的弱者のカウンセリング、社会保障制度の情報提供、助言、活用の提案、実践を行っている現場職員が担当する。社会保障制度とは、1. 医療保険、年金保険を代表とする保険制度2. 児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉等で周知されている社会福祉制度3. 疾病予防、食糧・水の安全の確保、生活環境の衛生保全を目的とした公衆衛生と大きく分類されている。これらの法が単独で成立しているのではなく、「人が生まれてから、天寿を全うするまで」の間の全てのライフサイクルに関わってくる。本講義では医療機関、福祉施設等の専門職として各法制度の理解、活用ができること。卒業後、医療・福祉各機関で活躍のために必要な知識を習得することで実践に結び付けたい。現行の社会保障制度を理解することにより1. 対象者へ質の高いサービスを提供するために制度を理解する。2. 所属する医療・福祉の現場で提供するサービスは社会保障に関する法、社会福祉に関する法によって制定されていることを理解する。3. 各法は独立した法でなく、関連していることを理解し活用できるようにする。4. 学生自身が社会人、家庭人として、各々の実生活に関係している制度、義務、権利を理解し、卒業後、社会人として、各法の遵守することも目的とする。社会福祉士として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。</p>
<p>関連する学科のDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム医療の中で多職種と連携し、看護師の役割を果たす能力</li> <li>・社会の動向を意識し、専門職業人として学び続け未来を創造できる能力</li> </ul>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「我が国の社会保障制度の概要」 社会保障入門目次 「総論 I、II」 一般目標 社会保障制度の種類を理解する。	「我が国の社会保障制度の概要」 到達目標 ①社会保険制度の種類を挙げることができる。 ②現代の国民生活と日本の社会保障制度の歴史を説明できる。 ③少子高齢化の進む日本社会で地域社会の在り方、労働の形態の変化を説明できる。 ④社会保障制度の変化を説明できる。 ⑤新しく設立された省庁と法の内容を説明できる。 ⑥社会福祉制度における支援の種類を挙げることができる。 ⑦諸外国の社会保障の現状を説明できる。 ⑧重層的支援の内容が説明できる。	葛谷 桂司

2	後期	<p>「医療保険制度」          社会保障入門目次 各論Ⅱ「保健医療」          一般目標          ①医療保険制度の仕組みを理解する。          ②医療保険制度の種類を理解する。</p>	<p>「医療保険制度」          到達目標          ①健康保険制度の加入要件について説明できる。          ②健康保険、国民健康保険の違いを説明できる。          ③健康保険制度の保険料納付、給付に関する内容を説明できる。          ④国民健康保険制度の加入要件について説明できる。          ⑤国民健康保険の制度の保険料納付、給付について説明できる。</p>	
3	後期	<p>所得保障制度          「年金制度」と「雇用保険制度と労働者災害補償保険制度」          社会保障入門 目次 各論Ⅲ「年金・労働保険」          一般目標          ①年金制度の仕組みを理解する。          ②国民年金、厚生年金の構成を理解する。          「雇用保険制度と労働者災害補償保険制度」          社会保障入門 目次「各論Ⅲ 年金・労働保険」          一般目標          ①雇用保険制度の目的を理解する。          ②雇用保険制度の内容を理解する。          ③労働者災害補償保険の目的を理解する。          労働者災害補償保険の内容を理解する。</p>	<p>「年金制度」          到達目標          ①年金制度の目的を説明できる。          ②国民年金、厚生年金の加入要件、納付について説明できる。          ③年金の受給資格について説明できる。          ④国民年金、厚生年金の給付の種類を挙げることができる。          「雇用保険制度と労働者災害補償保険制度」          到達目標          ①雇用保険制度の目的を説明できる。          ②雇用保険の加入要件、事業主の義務を説明できる。          ③雇用保険加入労働者の権利、失業給付等の給付要件、給付の種類・内容を説明できる。          ④労働者災害補償保険の目的を説明できる。          ⑤被災者に対する給付の種類を説明できる。          認定を受けた者の社会復帰に関する内容を説明できる。</p>	
4	後期	<p>「児童・ひとり親家庭の福祉」Ⅰ          「社会保障入門」総論⑨～⑭各論社会福祉「社会保障の手引」目次「児童の福祉」          一般目標          ①児童福祉法で保障されている児童の権利に対しての行政サービスの概要を紹介、保護者のいない児童の自立に活用できるサービス、児童虐待防止に関わる内容を理解する。          ②子ども・子育て支援制度の概要を理解する。          ④子ども基本法の内容を理解する。本法に関する機関の役割を理解する。</p>	<p>「児童・ひとり親家庭の福祉」Ⅰ          到達目標          ①児童福祉法の目的を説明できる。          ②児童の種類を挙げることができる。          ③児童相談所をはじめとする機関の役割を説明できる。          ④社会的養護の内容を説明できる。          ⑤子ども・子育て支援制度の概要を説明できる。          ⑥児童福祉施設の種類・支援内容を挙げることができる。          ⑦こども家庭庁の設置について説明できる。          ⑧こども基本法の内容を説明できる。こども家庭センターの役割を説明できる。</p>	葛谷桂司

5	後期	<p>「児童・ひとり親家庭の福祉」Ⅱ  「社会保障入門」目次 社会福祉各論  ⑩⑪⑫ 「社会保障の手引」「母子及び父子並びに寡婦の福祉」  一般目標  児童を取り巻く環境のうち、家庭の形態の変化、父又は母親との離死別等によりひとり親となった家庭に対して、「母子及び父子並びに寡婦福祉法」を基に提供する福祉サービス内容理解する。  ③家族形態・就労形態等の変化に伴い、「子どもの貧困」の問題がクローズアップされている。これは別単元の「生活保護受給者・生活困窮者の支援」と関連していること。子どものみの問題ではなく、その家族に対する支援内容を理解する。</p>	<p>「児童・ひとり親家庭の福祉」Ⅱ  到達目標  ①児童虐待に関する定義・責務を説明できる。  ②ひとり親家庭の定義、ひとり親家庭への支援について説明できる。  ③児童手当等の経済支援を挙げることができる。</p>
6	後期	<p>「母子保健制度」  「社会保障入門」各論 社会福祉⑮  「社会保障の手引」母子保健  一般目標  ①母子保健法の目的を理解する。  ②生まれる前と生まれた直後の児童および母親の健康のため、保健指導・健康診査・医療サービスを行う制度の内容を理解する。  乳児を新生児、未熟児、低体重児で分類し、サービス提供を行っていることを理解する。</p>	<p>「母子保健制度」  到達目標  ①母子健康手帳の申請・交付の内容を説明できる。  ②訪問指導の内容を説明できる。  ③妊産婦の訪問指導、未熟児の訪問指導、未熟児の養育医療について説明できる。  ④未熟児の基準を説明できる。  ⑤1歳6か月児健康診査、3歳児健康診査の内容、事後指導について説明できる。  ⑥妊産婦及び乳幼児健康診査について説明できる。  ⑦妊産婦高血圧症候群等の療育援護について説明できる。  ⑧B型肝炎母子感染事業の内容を説明できる。  ⑨先天性代謝異常等検査事業の内容を説明できる。  マタニティマークをとおした「妊産婦にやさしい環境づくり」の推進について説明できる。</p>

7	後期	<p>「生活保護制度と生活困窮者の支援」  「社会保障入門」 目次各論社会福祉①～③ 「社会保障の手引」  生活保護、生活困窮者等の支援  一般目標  ①生活保護制度の法的根拠を理解する。  ②生活保護制度の内容を理解する。  ③生活困窮者自立支援法の内容を理解する。  ④婦人保護事業の内容を理解する。  ⑤災害救助法の内容を理解する。</p>	<p>「生活保護制度と生活困窮者の支援」  到達目標  ①生活保護法の法的根拠を説明できる。  ②最低生活保障と自立助長を説明できる。  ③生活保護の基本原則を説明できる。  ④生活保護の基本原則を説明できる。  ⑤生活保護の種類を挙げることができる。  ⑥保護の実施機関と保護の実施について説明できる。  ⑦被保護者の責務を説明できる。  ⑧不正受給、不適正受給対策について説明できる。  ⑨ワークフェアとソーシャルインクルージョンについて説明できる。  ⑩生活保護法に規定されている保護施設の種類とサービスの内容を説明できる。  ⑪生活困窮者自立支援法の概要を説明できる。  ⑫生活困窮者自立支援法に規定されている支援事業の内容を説明できる。  ⑬婦人保護事業の実施機関、実施主体を説明できる。  ⑭災害救助法の目的を説明できる。  ⑮災害救助の種類を説明できる。  ⑯災害救助法に規定されている強制権を説明できる。  ⑰日本赤十字社の役割を説明できる。  ⑱令和7年度改正の災害救助法の孤立等の防止についてサービス内容を説明できる。</p>	葛谷桂司
8	後期	<p>「障害者(児)の保健福祉Ⅰ」  「社会保障入門」各論 社会福祉⑲～㉔  「社会保障の手引」 「障害者の保健福祉」  一般目標  ①障害者基本法の内容を理解する。  ②障害者差別に関する規定を理解する。  ③障害の法規定を理解する。  ④障害者(児)支援に関する行政機関のサービス提供の内容を理解する。  ⑤障害児の保健福祉について理解する。</p>	<p>「障害者(児)の保健福祉Ⅰ」  到達目標  ①障害者基本法の概要を説明できる。  ②差別禁止に関する内容を説明できる。  ③障害種類(身体障害、知的障害、精神障害、発達障害)を説明できる。  ④障害認定と障害者手帳の申請から交付の流れを説明できる。  ⑤身体障害者更生相談所の業務を説明できる。  ⑥知的障害者更生相談所の業務の内容を説明できる。  ⑦精神保健福祉センターの業務の内容を説明できる。  ⑧児童相談所の障害児に対する業務の内容を説明できる。  障害児施設の種類を説明できる。</p>	

9	後期	<p>「障害者(児)の保健福祉Ⅱ」  「社会保障入門」各論 社会福祉⑱～㉔  「社会保障の手引」「障害者の保健福祉」  一般目標  ①「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援する法律」(以下障害者総合支援法)の内容を理解する。  ②障害者総合支援法に基づく支援内容を理解する。  障害者虐待の問題を理解する。  ③障害者雇用促進法の内容、支援機関の理解をする。</p>	<p>「障害者(児)の保健福祉Ⅱ」  到達目標  ①「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援する法律」(以下障害者総合支援法)の目的、理念を説明できる。  ②障害者総合支援法に規定されている行政の役割を説明できる。  ③障害者総合支援法に規定されているサービス受給のための申請から認定の流れを説明できる。  ④障害者総合支援法に規定されている給付サービスの内容を説明できる。  ⑤障害者虐待の内容を説明できる。  ⑥障害者職業センターの役割を説明できる。  ⑦障害者就業・生活支援センターの業務内容を説明できる。  ⑧基幹相談支援センターの業務内容を説明できる。</p>	葛谷桂司
10	後期	<p>「障害者(児)の保健福祉Ⅲ」  「社会保障入門」各論 社会福祉⑱～㉔  「社会保障の手引」「障害者の保健福祉」  ①発達障害者支援法の内容を理解する。  ③医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律の概要、詳細を理解する。</p>	<p>「障害者(児)の保健福祉Ⅲ」  到達目標  ①発達障害者支援法の主旨を説明できる。  ①発達障害の定義を説明できる。  ②発達障害者支援法の基本理念を説明できる。  ③発達障害者支援法に規定されている支援の内容を説明できる。  ④発達障害者支援センターの実施主体、利用者について説明できる。  ⑤発達障害者支援センターの事業の内容を説明できる。  ⑥発達障害者支援センター内の職員配置について説明できる。  ⑦医療的ケア児と医療的ケアの説明ができる。  ⑧医療的ケア児とその家族に対する国、公共団体、保育所、学校の義務を説明できる  ⑨医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する施策を説明できる。</p>	

11	後期	<p>「高齢者の保健福祉Ⅰ」  「社会保障入門」各論 社会福祉④～⑧  「社会保障の手引」 高齢者の保健福祉  一般目標  ①高齢者福祉の歴史の概要を理解する。  ②介護保険の概要を理解する。  ③介護保険における支援対象者、提供サービスについて理解する  ④高齢者の権利擁護について理解する。  高齢者の虐待とその防止について理解する。</p>	<p>「高齢者の保健福祉Ⅰ」  到達目標  ①現行の介護保険法成立までの変遷を説明できる。  ②介護保険法創設について説明できる。  ③介護保険法の目的を説明できる。  ④介護保険法に規定されている保険者・被保険者について説明できる。  ⑤介護保険法に規定されている資格取得、喪失について説明できる。  ⑥保険事故について説明できる。  ⑦要介護状態、要支援状態認定について説明できる。  ⑧要介護、要支援認定について説明できる。  ⑨介護保険料の徴収について説明できる。  ⑩介護サービス提供までの流れを説明できる。  ⑪介護給付の内容を名称ごとに説明できる。  ⑫権利擁護の日常生活自立支援事業の内容を説明できる。  ⑬高齢者虐待について説明できる。  ⑭高齢者虐待の種類、法的措置を説明できる。  介護保険法に規定されている高齢者福祉施設の種類、内容を説明できる。</p>	葛谷桂司	
12	後期	<p>「高齢者の保健福祉Ⅱ」  「社会保障入門」各論 社会福祉④～⑧  「社会保障の手引」 高齢者の保健福祉  一般目標  ①介護予防の内容を理解する。  ②介護予防サービスの種類を理解する。  ③訪問型サービスの内容を理解する。  ④通所型サービスの内容を理解する。  ⑤一般介護予防事業の目的を理解する。  一般介護予防事業の種類、内容を理解する。</p>	<p>「高齢者の保健福祉Ⅱ」  到達目標  ①介護予防の目的を説明できる。  ②介護予防サービスの種類を説明できる。  ③訪問型サービスの内容を説明できる。  ④通所型サービスの内容を説明できる。  ⑤一般介護予防事業の目的を説明できる。  ⑥一般介護予防事業の種類、内容を説明できる。</p>		葛谷桂司
13	後期	<p>「高齢者の保健福祉Ⅲ」  一般目標  「社会保障入門」各論 社会福祉④～⑧  「社会保障の手引」 高齢者の保健福祉  ①認知症施策の内容を理解する。  ②新オレンジプランの内容を理解する。  ③認知症疾患医療センター運営事業の内容を理解する。  ④共生型サービスの内容を理解する。</p>	<p>「高齢者の保健福祉Ⅲ」  到達目標  ①認知症施策の流れを説明できる。  ②新オレンジプランの基本的な考えを説明できる。  ③新オレンジプランの「七つの柱」を説明できる。  ④認知症疾患医療センター運営事業の目的、支援内容を説明できる。  ⑤共生型サービスの創設の目的、介護保険サービスと障害者総合支援法との関連を説明できる。</p>		

14	後期	<p>「特殊疾病対策」 「社会保障入門」各論Ⅱ 保健医療⑩～⑭ 「社会保障の手引」「特殊疾病対策」 一般目標 ①地域保健活動で役割を担っている保健士の活動内容を理解する。 ①日本国内で発生する感染症対策の理解をする。 ②難病患者・その家族に対する支援について理解する。 ③特殊疾病対策における行政の責務を理解する。</p>	<p>「特殊疾病対策」 到達目標 ①保健士の活動内容を説明できる。 ①感染症の予防及び感染症患者に対する医療に関する法律の目的を説明できる。 ②感染症の種類を説明できる。 ③予防対策に関して、行政の責務を説明できる。 ④発生から対策の流れを説明できる。 ⑤都道府県知事の権限を説明できる。 ⑥感染症患者の人権の尊重について説明できる。 ⑦結核対策の目的、実施主体、定期健康診断について説明できる。 ⑧難病対策の難病の定義を説明できる。 ⑨難病対策の目的を説明できる。 ⑩特定医療費の支給内容を説明できる。 ⑪難病患者に対する支援策の目的、実施主体を説明できる。 ⑫難病相談支援センター事業の目的、支援内容を説明できる。 ⑬特定疾患治療研究事業の内容を説明できる。 ⑭特定疾患治療研究事業の対象疾患名を説明できる。 ⑯治療と給付に関する説明ができる。 ⑰被爆者支援、予防接種による健康被害に対する国、地方公共団体の被害者に対する救済、支援について説明できる。</p>	葛谷 桂司
15	後期	1) 授業総括 2) 科目試験		
成績評価方法		筆記試験(100%)		
準備学習など		<p>1. 講義の進め方について テキストのページの順序では講義は進めません。シラバスで必ず、確認して下さい。 2. 準備について 次のことを準備してください。 1. 中央法規 社会保障入門をシラバスで確認して予習すること。 2. 中央法規 社会保障の手引は付属のインデックスを貼って、準備しておくこと。 3. 「社会保障入門」で基本を学習し、応用として「社会保障の手引」で各法の詳細を学ぶ形式で講義を進めます。 4. 配布する「今日の復習」は必ず翌週講義までに解いておくこと。 必ず問題を解いておくようにしてください。レポート課題を1度出します。 初めて法律用語に触れる方もいると思います。現場で活躍するために必要な内容です。そのための準備として一緒に取り組みましょう。新聞等の記事も紹介します。講義に関連している内容も使用します。 必ず問題を解いておくようにしてください。レポートについては、1回課題を出す予定です。</p>		
関連科目				
留意事項				

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 2年次
科目名	チーム医療論
担当者	菊井 友・田中 敏彦・花隈 淳・奥地 伸城・西脇 克浩・岸田 紀子
単位数(時間数)	1単位 30時間
学習方法	講義 演習
教科書・参考書	系統看護学講座 看護の統合と実践 看護管理
	チーム医療とは何か 第2版 日本看護協会出版会

授業概要と目的

将来、チーム医療の一員として医療活動に参画できるようにするために必要な基本的な知識や態度（チーム医療の理論、チーム医療を構成する専門職や保健医療機関、チーム医療の種類など）を講義およびグループ学習形式で習得する。チーム医療の一員として各専門職の専門性を活かし、積極的に医療活動に参画できるようになるために、チーム医療に必要な基本的知識や技術、態度を習得することを目的とする。看護師・理学療法士・作業療法士・臨床工学士・言語聴覚士・社会福祉士として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。

関連する学科のDP

- ・看護の場における健康上の課題を明確にし、看護実践できる能力
- ・チーム医療の中で多職種と連携し、看護師の役割を果たす能力

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	全期	保健・医療・福祉システムにおけるチーム医療の概要を理解し、チーム医療について理解を深める	1) チーム医療とはを述べる 2) チーム医療の重要性の背景を知る 3) チーム医療に必要な要素を述べる 4) チームを構成する他職種メンバーを知る 5) 地域連携クリティカルパスを知る	菊井友
2	全期			
3	全期	社会福祉士の役割や機能、看護師の関わりを理解する	1) 社会福祉士の役割や機能の実際を知る。 2) 看護師の役割を知る	岸田紀子
4	全期	言語聴覚士の役割や機能、看護師の関わりを理解する	1) 言語聴覚士の役割や機能の実際を知る。 2) 看護師の役割を知る	西脇克浩
5	全期	作業療法士の役割や機能、看護師の関わりを理解する	1) 作業療法士の役割や機能の実際を知る。 2) 看護師の役割を知る	田中敏彦
6	全期	理学療法士の役割や機能、看護師の関わりを理解する	1) 理学療法士の役割や機能の実際を知る。 2) 看護師の役割を知る	奥地伸城
7	全期	臨床工学技士の役割や機能、看護師の関わりを理解する。	1) 臨床工学技士の役割や機能の実際を知る。 2) 看護師の役割を知る	花隈淳

8	全期	チーム医療にかかわるさまざまな専門職の定義と業務、役割を理解する 医療チームの構成メンバーとその役を理解する	1) チーム医療に関わる職種を知る 2) 各職種の定義を調べる 3) 各職種の教育背景・業務・役割を調べる	菊井友
9	全期	チーム医療にかかわるさまざまな専門職の定義と業務、役割を理解する	1) 医療チームの構成メンバーとその役割を述べる 2) 各チームにおける看護師の役割を述べる	
10	全期	チーム医療に必要な要素を理解する	1) チーム医療に必要な要素を体験を通して知る	
11	全期	学科横断的に構成するチームによる事例検討を通して、チームによる問題解決のプロセスを経験する。 提示された症例に含まれるさまざまな情報を多職種と共有し、患者や家族が有する問題を抽出して、グループとし課題解決の方法を考えることができる。	1) 患者・家族の抱える問題が抽出できる 2) 患者・家族の抱える問題解決の方法を述べる 3) チーム医療に必要な視点を点を述べる 4) 看護師の役割を考える	菊井友
12	全期			
13	全期			
14	全期			
15	全期	1) 授業総括 2) 科目試験		
成績評価方法		筆記試験 50点 レポート・発表 50点		
準備学習など				
関連科目				
留意事項		レポートは指定された日時までに必ず提出すること。正当な理由がなく期限までに提出されない場合は0点となります。 原則出席し講義・演習を受けていることがレポートの採点対象となります。		

学科・学年	看護科 2年次
科目名	看護における薬物療法
担当者	富永 美歩
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学技術 I 医学書院 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学技術 II 医学書院 看護が見えるVol.1基礎看護技術 メディックメディア 看護が見えるVol.2臨床看護技術 メディックメディア

授業概要と目的

薬物療法を受けている対象への診療の補助技術は、正確性・安全性・安楽性が求められ、高い倫理観が必要とされていることを学ぶ。さらに、薬物療法における看護師の役割と責務を理解し、科学的根拠を踏まえた臨床判断を養いながら、対象が効果的で安全な薬物療法を受けるための基本的知識、技術、態度を習得する。

看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。

関連する学科のDP

- ・多様性や柔軟性を備えた人間性と科学的根拠を用いた臨床判断能力
- ・看護の場における健康上の課題を明確にし、看護実践できる能力

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	・与薬の基礎知識と看護師の役割を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・与薬の基礎知識が説明できる。</li> <li>・与薬における看護師の役割が説明できる。</li> <li>・薬物動態について説明できる。</li> <li>・6Rについて説明できる。</li> <li>・与薬における安全や事故防止について説明できる。</li> </ul>	富永美歩
2	前期	・経口与薬、口腔内与薬について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経口与薬、口腔内与薬の基礎知識が説明できる。</li> <li>・経口与薬、口腔内与薬の留意点、実施方法が説明できる。</li> </ul>	
3	前期	・吸入、点眼、点鼻、経皮的与薬、直腸内与薬について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種与薬の基礎知識が説明できる。</li> <li>・各種与薬の留意点、実施方法が説明できる。</li> </ul>	
4	前期	・各種の与薬方法を習得する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・与薬の確認 (6R) が実施できる。</li> <li>・各種与薬が実施できる。</li> </ul>	
5	前期	・注射の基礎知識を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・注射法に関する基礎的知識を説明できる。</li> </ul>	
6	前期	・注射の準備方法を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・注射の準備方法を説明できる。</li> <li>・バイアル、アンプルの取り扱い方法が説明できる。</li> </ul>	
7	前期	・皮下注射、皮内注射、筋肉内注射の基礎的知識、実施方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各注射法の基礎知識が説明できる。</li> <li>・各注射法の留意点、実施方法を説明できる</li> </ul>	

8	前期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バイアル、アンプルの取り扱いを身に付ける</li> <li>・注射法を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バイアル、アンプルの取り扱いが実施できる</li> <li>・皮下注射 皮内注射、筋肉注射を体験する。</li> </ul>	富永美歩
9	前期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筋肉注射、皮下注射を習得する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シミュレーターを用い注射が実施できる。</li> </ul>	
10	前期			
11	前期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・輸液療法の基礎知識を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・輸液療法の基礎的知識を説明できる。</li> <li>・輸液の計算ができる。</li> </ul>	
12	前期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・点滴静脈内注射について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・輸液療法の基礎的知識が理解できる。</li> <li>・点滴静脈内注射の準備と観察内容が説明できる。</li> </ul>	
13	前期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・点滴静脈内注射を習得する。</li> <li>・側管注入法を理解できる。</li> <li>・特殊な薬剤投与について理解する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・点滴点滴静脈内注射が実施できる</li> <li>・側管注入法を説明できる</li> <li>・特殊な薬剤投与時の観察内容を説明できる</li> </ul>	
14	前期			
15	前期	1) 授業総括 2) 科目試験(60分)		
成績評価方法		筆記テスト(40%) 課題(60%)		
準備学習など		視聴覚教材やプリントを用いて事前学習を行ない授業に参加する。ら保健・医療や福祉に関する新聞記事やニュース(薬剤に関すること、薬剤に関連した医療事故)など色々なことに関心を持ち、多くの体験と学習をして視野を広げていく。)		
関連科目				
留意事項				

学科・学年	看護科 2年次
科目名	臨床判断シミュレーション演習 I
担当者	野村 あすか
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 医学書院

授業概要と目的

看護場面では、患者の状況などから臨床判断を行ない看護が実施されている。臨床判断とは「看護師らしく考え実践する」ことであり、目に見えない頭の中の思考である。また、そのとき、その場で状況によって変化する性質をもつため、普遍的な知識として提示しにくく、共通認識されにくいという性質をもつ。そこで、日常生活の場面を想定した事例を通して「気づき」「解釈」「反応」「省察」のプロセスを顕在化し、対象を支えるために必要な基礎的な臨床判断能力を習得する。

看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。

関連する学科のDP

- ・人間を多角的に捉え受け入れ、良好なコミュニケーションを図れる能力
- ・多様性や柔軟性を備えた人間性と科学的根拠を用いた臨床判断能力
- ・看護の場における健康上の課題を明確にし、看護実践できる能力

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	全期	・臨床判断について理解する。	・臨床判断について説明できる。 ・臨床判断の構成概念について説明できる。 ・臨床判断のプロセスについて説明できる。	野村 あすか
2	全期	・DVDの「排泄場面」を通して、「気づき」を身に付け、「気づき」から「解釈」することを理解する。	・事例から「気づき」を述べる。 ・「気づき」から「解釈」したことを述べる。	
3	全期			
4	全期	・事例から臨床判断能力を習得する。	・場面における「気づき」「解釈」「反応」「省察」を述べることができる。 ・事例に応じた臨床判断ができる。 ・臨床判断のプロセスを説明し、実際の臨床判断場面を発表し学びを共有する。	
5	全期			
6	全期	・DVDの「清潔場面」を通して、「気づき」を身に付け、「気づき」から「解釈」することを理解する。	・事例から「気づき」を述べる。 ・「気づき」から「解釈」したことを述べる。	
7	全期			
8	全期	・事例から臨床判断能力を習得する。	・場面における「気づき」「解釈」「反応」「省察」を述べることができる。 ・事例に応じた臨床判断ができる。 ・臨床判断のプロセスを説明し、実際の臨床判断場面を発表し学びを共有する。	
9	全期			

10	全期	・DVDの「食事場面」を通して、「気づき」を身に付け、「気づき」から「解釈」と理解する。	・事例から「気づき」を述べる。 ・「気づき」から「解釈」したことを述べる。	野村 あすか
11	全期			
12	全期	・事例から臨床判断能力を習得する。	・場面における「気づき」「解釈」「反応」「省察」を述べることができる。 ・事例に応じた臨床判断ができる。 ・臨床判断のプロセスを説明し、実際の臨床判断場面を発表し学びを共有する。	
13	全期			
14	全期	・看護における臨床判断の必要性を理解する	・場面における「気づき」「解釈」「反応」「省察」の必要性を述べることができる。 ・臨床判断場面の発表からの学びを述べるができる。	
15	全期	1) 授業総括 2) 科目試験(60分)		
成績評価方法		筆記試験(50%) レポート(50%)		
準備学習など		事例を理解するために必要な疾患学習を行い授業に臨む。		
関連科目		人体構造機能学、病態治療学、基礎看護技術		
留意事項				

学科・学年	看護科 2年次
科目名	看護過程基礎演習
担当者	兼山 美千代
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学技術 I 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学③ 循環器 医学書院

<p>授業概要と目的</p> <p>看護を科学的・論理的に実践する方法論としての看護過程について、その意義や目的、看護過程の各段階を学ぶ。また学習した理論やゴードンの枠組みを用いて看護の思考を展開しながら、看護の行動を行うことの基本的知識を学ぶ。看護過程を展開しそれを正確な記録として共有することで、看護の質や満足度を高め対象を多方面から支えることを重視した看護展開に繋げる。</p> <p>看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。</p>
<p>関連する学科のDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様性や柔軟性を備えた人間性と科学的根拠を用いた臨床判断能力</li> <li>・看護の場における健康上の課題を明確にし、看護実践できる能力</li> </ul>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「看護における記録とは」 ・看護における記録・報告の意義・必要性を理解する。	「看護における情報の意義と共有」 ・記録、報告の意義と必要性を説明する。 ・看護記録に関する法的規定を列挙する。 ・看護記録の種類について説明する。	兼山 美千代
2	前期	「看護過程とは」 ・看護過程の概念と構成要素を理解する。	「看護過程の展開方法」 ・看護過程の意義と目的を述べる。 ・看護過程の5つの構成要素を述べる。 ・5つの構成要素の関係性を説明する。 ・アセスメントの思考と必要性を述べる。	
3	前期	「看護過程の展開」① ・看護過程の基盤の考え方と展開の基礎的知識を理解する。	「看護過程の基盤となる考え方」 ・問題解決過程、クリティカルシンキング、リフレクション、臨床推論と臨床判断について述べる。 「ゴードンの機能的健康パターンによる問題解決過程方法」 ・ゴードンの機能的健康パターンによる看護展開の概略を述べる。	
4	前期	「看護過程の展開」② ・事例を通して、看護過程を展開する。	「慢性心不全事例で看護展開するための準備」(GW) ・看護過程の基礎知識について説明する。 ・看護過程の展開のオリエンテーションから進め方を知る。 ・紙上事例の文脈理解について言語化する。 ・事例の疾患の病態、治療について調べる。	

5	前期	「看護過程の展開」③ ・事例を通して、看護過程を展開する。	「紙上事例の病態理解と情報収集」(GW) ・事例の疾患の病態、治療を説明する。 ・ゴードンの11の機能的健康パターン of の枠組みに沿って、S情報とO情報に整理する	兼山 美千代
6	前期	「看護過程の展開」④ ・事例を通して、看護過程を展開する。	「紙上事例からの情報収集」(GW) ・ゴードンの11の機能的健康パターン of の枠組みに沿って整理した情報を共有する。 ・不足している情報収集内容を確認し、収集方法を考える。	
7	前期	「看護過程の展開」⑤ ・事例を通して、看護過程を展開する。	「患者からの情報収集」(GW) ・情報ガイドブックを用いて、不足している情報を収集し整理する。 ・全体で追加情報を共有する。 ・11項目の整理した情報を共有する。	
8	前期	「看護過程の展開」⑥ ・事例を通して、看護過程を展開する。	「整理した情報の解釈・分析」(GW) ・主要1項目(健康-知覚)の情報のアセスメント(解釈・分析)を記述する。 ・アセスメント内容を共有する。	
9	前期	「看護過程の展開」⑦ ・事例を通して、看護過程を展開する。	「整理した情報のアセスメント」(GW) ・主要5項目の情報の解釈と分析を記述する。 ・アセスメント内容を共有するための意見交換をする。 ・アセスメント内容の修正・追加記録をする。	
10	前期	「看護過程の展開」⑧ ・事例を通して、看護過程を展開する。	「全体像を理解する関連図」(GW) ・参考書を用いて関連図を描いてみる。 ・情報の関連を表示して関連性に気づく。	
11	前期	「看護過程の展開」⑨ ・事例を通して、看護過程を展開する。	「全体像を理解する関連図」(GW) ・情報の関連性から全体像を関連図として表現する。	
12	前期	「看護過程の展開」⑩ ・事例を通して、看護過程を展開する。	「看護問題の抽出」(GW) ・関連図から、看護問題を抽出する。 ・表記ルールに則り、看護問題を表記する。 ・看護問題の優先順位を根拠をもって述べる。	
13	前期	「看護過程の展開」⑪ ・事例を通して、看護過程を展開する。	「看護計画の立案」(GW) ・観察計画、実施計画、教育計画にわけて記録する。 ・期待される成果、評価日を設定する。	
14	前期	「看護過程の展開」⑫ ・事例を通して、看護過程を展開する。	「看護援助の実施」 ・看護計画の実践例から読み取る。 ・看護をSOAPで記録する。	
15	前期	・看護過程について学びを総括する。	「看護問題の評価」 ・評価の視点と評価を実施する ・看護過程の必要性について、事例学習からの学びを述べる。	

成績評価方法	看護過程記録(評価規準・基準、記録の提出については、始講時に説明) 100%
準備学習など	
関連科目	人体構造機能学Ⅰ、病態治療学Ⅲ、臨床看護技術Ⅱ
留意事項	

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 2年次
科目名	地域で療養する人を支えるⅠ 地域包括ケアシステム
担当者	藤田 るみ
単位数(時間数)	1単位 (15時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	ナーシング・グラフィカ 地域療養を支えるケア メディカ出版

<p>授業概要と目的</p> <p>国が掲げる地域包括ケアシステムが誕生した背景、機能とその実際を知り、地域に暮らす人が安心して、安全に人生を全うするための方法を学ぶ。先に学んだ「地域で暮らす人・家族の理解」をもとに、地域包括ケアシステムによりできることと、残された課題を考えていく。そうしたことから自分のできることを追求する姿勢をもち、自らもまた地域の一員として存在しているという視点に立つことと、看護師として地域で療養している人を支えるという2つの側面でもとらえることで、看護実践につなげていく。</p> <p>看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。</p>
<p>関連する学科のDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護の場における健康上の課題を明確にし、看護実践できる能力</li> <li>・チーム医療の中で多職種と連携し、看護師の役割を果たす能力</li> <li>・社会の動向を意識し、専門職業人として学び続け未来を創造できる能力</li> </ul>

回	授業日	「授業項目」	「授業内容」	担当者
(コマ)		一般目標(GIO)	到達目標(SBOs)	
1	前期	・地域で健康に暮らすための地域包括ケアシステムを理解する。	・地域包括ケアシステムの機能を述べるができる。 ・地域で暮らすための、自助、互助、共助、公助について説明できる。	藤田 るみ
2	前期	・地域包括支援センターの機能を理解する。	・地域包括支援センターの機能を述べるができる。 ・地域との連携と共同について説明できる。	
3	前期	・ケアマネジメントができる能力を身に付ける。	・ケアマネジメントの概要を説明できる。 ・介護保険におけるケアマネジメントを述べるができる。 ・地域ケア会議の概要を説明できる。	
4	前期		・事例をもとにアセスメントし、事例の問題点を説明できる。	
5	前期	・地域で安心・安全に暮らすために理解し、対策を講じることができる能力を修得する。	・実際の地域をアセスメントし、暮らすための課題を明らかにする。	

6	前期		・住み慣れた地域で暮らすために、課題を明らかにできる。
7	前期		・得られた課題から、どのような対策があるかを説明できる。
8	前期	科目試験(45分)	
成績評価方法	筆記試験(70%) 課題・演習(30%)		
準備学習など	各講義の学習目標が達成できるように、復習をしっかりと行う。		
関連科目			
留意事項			

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 2年次
科目名	地域で療養する人を支えるⅡ 地域で暮らすことを支える
担当者	長尾 陽子
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	ナーシング・グラフィカ 地域療養を支えるケア メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 地域療養を支える技術 メディカ出版

授業概要と目的
<p>地域療養を支える制度とその活用法、そして在宅看護の方法の一つである訪問看護制度について、サービスの導入・展開方法について学び、地域で療養している様々な健康状態にある対象を支える看護の実際を学ぶ。 看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。</p>
関連する学科のDP
<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護の場における健康上の課題を明確にし、看護実践できる能力</li> <li>・チーム医療の中で多職種と連携し、看護師の役割を果たす能力</li> <li>・社会の動向を意識し、専門職業人として学び続け未来を創造できる能力</li> </ul>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	前期	地域で暮らす療養者の保健制度を理解する。	・高齢者の医療保険制度を事例で説明できる。	長尾 陽子
2	前期	地域で暮らす療養者の保健制度を理解する。	・年金制度を自分に置き換えて述べる。	
3	前期	地域で暮らす療養者の保健制度を理解する。	・介護保険を受けるための仕組みを述べる。 ・介護保険サービスの種類と内容を説明できる。	
4	前期	人の権利擁護にかかわる制度を理解する。	・福祉用具に実際に操作できる。 ・成年後見制度を述べる。	
5	前期	ハンディキャップがある人の制度を理解する。	・障害者制度について具体的内容を述べる。	
6	前期	ハンディキャップがある人の制度を理解する。	・障害者を支える手当・年金制度を述べる。	
7	前期	ハンディキャップがある人の制度を理解する。	・難病を支える制度と対策について述べる。	
8	前期	ハンディキャップがある人の制度を理解する。	・子どもを支える制度と社会資源について述べる。	
9	前期	生活に困窮する人の制度を理解する。	・生活保護を受ける条件を説明できる。	

10	前期	生活に困窮する人の制度を理解する。	・生活保護を受ける現状と生活について述べる。 ・公費負担医療を述べる。	長尾 陽子
11	前期	訪問看護制度を理解する。	・訪問看護制度と看護師の役割を述べる。	
12	前期	訪問看護制度を理解する。	・看護ステーションについて述べる。	
13	前期	訪問看護制度を理解する。	・訪問看護の対象者の特徴を述べる。 ・訪問看護サービスの事例を通して展開と必要な金額を述べる。	
14	前期	訪問看護制度を理解する。	・病院との違いを理解し、多職種連携について述べる。	
15	前期	1) 授業総括 2) 科目試験(60分)		
成績評価方法		筆記試験(100%)		
準備学習など				
関連科目				
留意事項				

学科・学年	看護科 2年次
科目名	地域で療養する人を支えるⅢ 在宅看護技術
担当者	山根 基宏／内藤 綾子／井上 苑香／山根 有花／甲斐 昌樹／堀 淳
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	ナーシング・グラフィカ 地域療養を支える技術 メディカ出版

<p>授業概要と目的</p> <p>地域で療養する人の暮らしを支え、在宅看護を展開するために必要なヘルスアセスメントを実施し、看護援助・医療処置・管理方法について学ぶ。</p> <p>看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。</p> <p>関連する学科のDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様性や柔軟性を備えた人間性と科学的根拠を用いた臨床判断能力</li> <li>・看護の場における健康上の課題を明確にし、看護実践できる能力</li> </ul>
--

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	全期	訪問看護の実際を理解する。	訪問看護の実際について説明できる。	内藤綾子
2	全期	在宅療養者の症状・状態別看護(1) ・認知症高齢者への在宅看護について理解する。	認知症高齢者への在宅看護の特徴が説明できる。	山根基宏
3	全期	在宅療養者の症状・状態別看護(2) ・がんの療養者への在宅看護について理解する	がんの療養者への在宅看護の特徴が説明できる。	山根有花
4	全期	在宅療養者の症状・状態別看護(3) ・神経系難病の療養者への在宅看護について理解する。①	神経系難病の療養者への在宅看護の特徴が説明できる。	山根基宏
5	全期	在宅療養者の症状・状態別看護(4) ・神経系難病の療養者への在宅看護について理解する。②	神経系難病の療養者への在宅看護の特徴が説明できる。	甲斐昌樹
6	全期	在宅療養者の症状・状態別看護(5) ・疾病や障がいをもつこどもの在宅看護について理解する。①	疾病や障がいをもつこどもの在宅看護の特徴が説明できる。	内藤綾子
7	全期	在宅療養者の症状・状態別看護(6) ・疾病や障がいをもつこどもの在宅看護について理解する。②	疾病や障がいをもつこどもの在宅看護の特徴が説明できる。	井上苑香

8	全期	在宅看護におけるターミナル期の療養者の看護(1) ・緩和ケアの実際について理解する。 ・看取りの看護と家族ケアの概念について理解する。	在宅看護におけるターミナル期の療養者の看護が説明できる。	山根有花
9	全期	在宅看護におけるターミナル期の療養者の看護(2) ・在宅での死後の処置について理解する。 ・グリーフケアについて理解する。	在宅看護におけるターミナル期の療養者の看護が説明できる。	内藤綾子
10	全期	特殊な技術を伴う在宅看護(2) 在宅酸素法(HOT)について理解する。	特殊な技術を伴う在宅看護の目的と特徴、およびヘルスアセスメントと看護技術について説明できる。	山根基宏
11	全期	特殊な技術を伴う在宅看護(3) 在宅人工呼吸器療法(HMV)について理解する。	特殊な技術を伴う在宅看護の目的と特徴、およびヘルスアセスメントと看護技術について説明できる。	山根基宏
12	全期	特殊な技術を伴う在宅看護(4) 在宅輸液療法について理解する。	特殊な技術を伴う在宅看護の目的と特徴、およびヘルスアセスメントと看護技術について説明できる。	内藤綾子
13	全期	精神疾患をもつ療養者への在宅看護の特徴を理解する。	精神疾患をもつ療養者への在宅看護の特徴が説明できる。	堀淳
14	全期	在宅での服薬管理を理解する。	在宅での服薬管理が説明できる。	
15	全期	1) 授業総括 2) 科目試験(60分)		山根基宏
成績評価方法	山根:筆記試験(85%) 堀:筆記試験(15%)			
準備学習など				
関連科目				
留意事項				

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 2年次
科目名	地域で療養する人を支えるⅣ 事例から学ぶ
担当者	二宮 麻衣
単位数(時間数)	1単位 (15時間)
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論(1) 地域療養を支えるケア メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論(2) 在宅療養を支える技術 メディカ出版

授業概要と目的

地域で暮らす療養者とその家族の暮らしや思いを理解し、価値観に応じた看護の展開するために、必要な思考過程を事例演習を通して修得する。

看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。

関連する学科のDP

- ・多様性や柔軟性を備えた人間性と科学的根拠を用いた臨床判断能力
- ・看護の場における健康上の課題を明確にし、看護実践できる能力
- ・チーム医療の中で多職種と連携し、看護師の役割を果たす能力

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	後期	・在宅療養における看護過程の展開技術を理解する。	1)在宅療養における看護糧の特徴を説明できる。 2)在宅看護におけるヘルスアセスメントについて説明できる。 3)情報収集の項目とアセスメントのポイントを説明できる。	二宮 麻衣
2	後期	・在宅療養における看護過程の展開ポイントを理解する。	1)看護過程の展開について説明できる。 ①優先順位 ②計画立案 ③評価の項目	
3	後期	・在宅療養における看護過程の展開が実施できる。	1)事例による看護過程の展開(演習) ①看護課程を展開するための方法や記録の進めかたについて説明できる。 ②事例患者の特徴について記述できる。 ③事例の病態について記述できる。 ④フェースシートに必要な情報を整理できる。 ③情報から必要なアセスメントを記述できる。 (アセスメント内容の修正・追加) ④事例患者に応じた看護計画を立案できる。	
4	後期			
5	後期			
6	後期			
7	後期			
8	後期	・看護過程についての総括をする。	1)地域・在宅における看護過程について自己の学びを述べる。	

成績評価方法	看護過程の記録提出状況(80%) 発表・態度(20%)
準備学習など	疾患・障害の特徴に応じた在宅看護の実践について既習学習を復習する。
関連科目	地域・在宅看護論実習Ⅱ 各領域における看護学実習
留意事項	

学科・学年	看護科 2年次
科目名	病気と共に生きる成人を支えるⅡ 慢性期
担当者	兼山 美千代 松浦 美都
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学① 成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学② 呼吸器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学③ 循環器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学⑥ 内分泌・代謝 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学⑧ 腎・泌尿器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 別巻 栄養食事療法 医学書院

授業概要と目的

慢性疾患をもつ成人の特徴を理解し、慢性疾患と共に暮らす人を支える看護を実践するための基礎知識を学ぶ。また、主な慢性疾患の看護の方法と実際を学び、慢性疾患を抱える成人が生涯にわたって、セルフマネジメントをしていくための対象への学習支援の基本的な考え方とその技術を学ぶ。

看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。

関連する学科のDP

- ・多様性や柔軟性を備えた人間性と科学的根拠を用いた臨床判断能力
- ・看護の場における健康上の課題を明確にし、看護実践できる能力

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	全期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・慢性期の看護を理解する。</li> <li>・セルフマネジメントを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・慢性病とともに生きる人の特徴を述べる。</li> <li>・セルフケアのとセルフマネジメントについて述べる。</li> <li>・生活再構築への支援について述べる。</li> </ul>	兼山 美千代
2	全期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セルフマネジメントが必要な対象を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・慢性期に用いられる理論と概念を述べる。</li> <li>・セルフケアが必要な疾患(糖尿病)の特徴と看護の考え方を述べる。</li> </ul>	
3	全期	糖尿病とともに生きるセルフマネジメント支援と看護の展開(1) <ul style="list-style-type: none"> <li>・糖尿病を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴードンを活用して看護過程の展開をする。</li> <li>・アセスメント①</li> </ul>	
4	全期	糖尿病とともに生きるセルフマネジメント支援と看護の展開(2) <ul style="list-style-type: none"> <li>・糖尿病をもつ対象を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴードンを活用して看護過程の展開をする。</li> <li>・アセスメント②</li> </ul>	
5	全期	糖尿病とともに生きるセルフマネジメント支援と看護の展開(3) <ul style="list-style-type: none"> <li>・糖尿病をもつ対象にとっての看護問題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アセスメント③</li> <li>・関連図作成</li> <li>・看護問題の抽出</li> </ul>	
6	全期	成人看護技術(5) <ul style="list-style-type: none"> <li>・フットケアを習得する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フットケアの方法と留意点と実際について述べる。</li> </ul>	松浦 美都

7	全期	糖尿病とともに生きるセルフマネジメント支援と看護の展開(4) ・糖尿病をもつ対象に必要な看護援助を理解する。	・看護問題の優先順位 ・看護計画の立案	兼山 美千代
8	全期	糖尿病とともに生きるセルフマネジメント支援と看護の展開(5) ・糖尿病をもつ対象に必要な学習支援を理解する。	・看護計画の立案 ・E-Pに食事療法と運動療法・薬物療法・急性合併症への学習支援の内容を述べる。	
9	全期	成人看護技術(1) ・簡易血糖測定・インスリン自己注射・自己検脈を理解する。	・簡易血糖測定・インスリン自己注射・自己検脈の実施方法と留意点を述べる。	
10	全期	成人看護技術(2) ・簡易血糖測定の方法を習得する。	・簡易血糖測定を実施する。	
11	全期	慢性腎不全とともに生きるセルフマネジメント支援と看護の展開1 ・慢性腎不全を理解する。	・セルフケアが必要な疾患(慢性腎不全)の特徴と看護の考え方を述べる。	
12	全期	慢性腎不全とともに生きるセルフマネジメント支援と看護の展開2 ・慢性腎不全を理解する。	・透析療法を受ける患者の看護について述べる。	
13	全期	COPDとともに生きるセルフマネジメント支援と看護の展開1 ・COPDを理解する。	・セルフケアが必要な疾患(COPD)の特徴と看護の考え方を述べる①。	
14	全期	COPDとともに生きるセルフマネジメント支援と看護の展開2 ・COPDを理解する。	・セルフケアが必要な疾患(COPD)の特徴と看護の考え方を述べる②。	
15	全期	1) 授業総括 2) 科目試験(60分)		
成績評価方法	テスト(70%) 課題(30%)			
準備学習など	この科目では、糖尿病の事例を扱う。そのため、糖尿病の病態生理、診断と治療、症状および合併症について準備学習を行うこと。校内実習では穿刺技術を、演習では栄養食事療法の知識を要するため、その準備学習を行うこと。			
関連科目	成人看護学概論、成人看護学(糖尿病・腎・呼吸器)、臨床看護技術Ⅱ			
留意事項	この科目は、慢性期の看護を学ぶ上で必要な知識となる科目です。予習・復習を自主的に行い、積極的に学ぶ姿勢で受講してください。また、看護は広い学習が必要です。日頃から保健・医療・福祉に関する新聞記事やニュースなどの報道に関心を持つなど、色々なことに関心を持ち、多くの体験と学習をして視野を広げ、自己の問いを育む姿勢で学習を深めていきましょう。			

学科・学年	看護科 2年次
科目名	病気と共に生きる成人を支えるⅢ クリティカルケア
担当者	大野 健二 糟谷 豪哲 富永美歩
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	系統看護学講座 別巻 救急看護学 医学書院 系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 臨床看護総論 医学書院

<p>授業概要と目的</p> <p>医療制度の変化や医療技術の高度化・進歩によって、重症患者を専門的かつ集中的に看護する機会が増え、看護師は高度で幅広い知識が求められる。この科目では、急性期の一部として学習するのではなく、クリティカルな状況にある対象および家族を全人的に捉え、これまでの暮らしにどのような影響を及ぼすのかということに気づけるよう事例を通して臨床推論(気づきの顕在化からの実践)、治療の特殊性を学習したうえで、クリティカルケア看護について理解する。</p> <p>看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。</p>
<p>関連する学科のDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様性や柔軟性を備えた人間性と科学的根拠を用いた臨床判断能力</li> <li>・看護の場における健康上の課題を明確にし、看護実践できる能力</li> <li>・チーム医療の中で多職種と連携し、看護師の役割を果たす能力</li> </ul>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	全期	クリティカルケア看護の概要を理解する。	・クリティカルケアを必要とする患者と家族の特徴を説明できる。 ・クリティカルケア看護の管理とチーム医療について述べる。	富永美歩
2	全期	クリティカルケア看護に必要なマネジメントを理解する。	・クリティカルケア看護実践に必要な倫理・法律について述べる。	
3	全期	外傷を受けた患者の救急時の看護技術を理解する。	・外傷患者の概要について説明できる。 ・一次救命処置(BLS)が必要とされる状況を述べることができる。	大野健二
4	全期	外傷を受けた患者の救急時の看護技術を理解する。	・止血法を実施できる。 ・BLSを実施できる。	
5	全期	事例を通して心筋梗塞急性期の必要な看護を理解する	事例を通して急性心筋梗塞急性期の必要な看護を考察することができる。 循環のモニタリング、評価方法 補助循環について(IABP、PCPS)	糟谷豪哲
6	全期			
7	全期			

8	全期	事例を通してARDSの必要な看護を理解する セルフケアの代行と補完に関する医療機器を理解する	事例を通して呼吸不全患者の必要な看護を考えることができる。 呼吸のモニタリング、評価方法 人工呼吸について	糟谷豪哲
9	全期	セルフケアの代行と補完が必要なショックの看護を理解する 輸血看護について理解する	事例を通してショックの必要な看護を考えることができる 輸血が必要な患者の看護について述べるができる	
10	全期	救急に必要な看護技術を理解する	心電図モニター、12誘導心電図、電気ショックの使用方法を体験する(12誘導心電図の演習含む)	
11	全期	クリティカルケア看護に必要な看護技術を理解する(1)	・観察と全身状態のアセスメントができる (シミュレーター使用)	富永美歩
12	全期	クリティカルケア看護に必要な看護技術を理解する(2)	・急変時の対応が実施できる (シミュレーター使用)	
13	全期	クリティカルケア看護に必要な看護技術を理解する(3)	・気管挿管が必要となる患者のアセスメントができる	
14	全期	クリティカルケア看護に必要な看護技術を理解する(4)	・気管挿管時の看護が実施できる	
15	全期	1) 授業総括 2) 科目試験(60分)		
成績評価方法	(富永)筆記試験30点 レポート15点 (大野)筆記試験10点 (糟谷)筆記試験45点			
準備学習など	講義前には予習・復習を積極的に行うこと。			
関連科目				
留意事項	クリティカルケア看護看護は対象も内容も幅広い分野です。日頃から保健・医療や福祉に関する新聞記事やニュースなどの色々なことに関心を持って視野を広げ、自己の問いを育む姿勢で学習を深めていきましょう。			

学科・学年	看護科 2年次
科目名	病気と共に生きる成人を支えるⅣ 周術期
担当者	神野 歌純 富永 美歩
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義・グループワーク・演習
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(5) 消化器 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 北島泰子 中村充浩:急性期実習に使える！周術期看護ぜんぶガイド,照林社,2020.

<p>授業概要と目的</p> <p>周術期・回復期にある患者の適応を促進する看護を実践できる基礎的能力を養うことを目的としている。周術期では、手術を受ける患者を中心に手術が決定してから退院後までの一連の過程に沿った看護を提供することである。手術を受けた患者は手術侵襲から回復する段階で特徴ある反応を示し、回復していく。また、術後の反応から回復の歩みを判断し、術後の考えられる合併症を予測していくことから順調に、回復に向かうよう導いていく看護が重要であることを学ぶ。</p> <p>看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。</p>
<p>関連する学科のDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様性や柔軟性を備えた人間性と科学的根拠を用いた臨床判断能力</li> <li>・看護の場における健康上の課題を明確にし、看護実践できる能力</li> <li>・チーム医療の中で多職種と連携し、看護師の役割を果たす能力</li> </ul>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	全期	周術期看護の概要を理解する。	周術期看護の特徴を説明できる。 手術侵襲と生体反応の特徴を説明できる。	富永 美歩
2	全期	周術期看護の実際について理解できる。(手術前)	手術前の準備について説明できる。 術後合併症の発生機序と症状を説明できる。	
3	全期	手術と麻酔の種類とその違いを理解する。	手術の種類と分類を説明できる。 麻酔の種類とそれが身体にもたらす影響を説明できる。 患者が治療の選択ができるための支援を説明できる。	神野 歌純
4	全期	手術前の看護を理解する。	手術を安全に受けるための術前準備について説明できる。 術直前の様々な援助の違いを説明できる。 (1) 外来での看護 (2) 前日 (3) 当日(手術室入室まで) (4) 日帰り手術	
5	全期	手術中の患者とその環境について理解する。(1)	手術室の安全な環境管理と感染管理について説明できる。 手術室看護の援助内容を説明できる。 (1) 入室から麻酔導入までの支援 (2) 手術体位の介助と体位の実際 (3) 外科的手洗いとガウンテクニック	

6	全期	手術中の患者とその環境について理解する。(2)	手術体位の介助と体位の実際を体験する。 外科的手洗いとガウンテクニックを実施する。	
7	全期	手術中の患者を管理する方法を理解する。	術中に起こりやすい合併症とその予防方法、看護について説明できる。 (1)人工心肺装置 (2)装着モニターの種類と目的 麻酔覚醒時の看護師について説明できる。 病棟への継続看護について説明できる。	神野 歌純
8	全期	退院に向けての支援について理解する。	術後障害に対するセルフケアの習得について説明できる。 術後障害をもちながら社会生活に復帰するための支援を説明できる。 (1)術後の継続看護の必要性 (2)継続看護を支える看護師と多職種間の連携	
9	全期		周術期に必要な情報収集ができる。	
10	全期		起こりやすい術後合併症を考えることができる。(1)	
11	全期	事例(直腸がん)を通して全身麻酔を受ける患者の看護を理解する。	起こりやすい術後合併症を考えることができる。(2)	
12	全期		起こりやすい術後合併症を考えることができる。(3)	
13	全期		周術期の視点をふまえた看護計画を立案できる。	富永 美歩
14	全期	手術後に必要な看護技術を習得する。	シミュレーターを用いて周術期患者への援助が実施できる。 (1)手術後の観察 (2)創傷処置 ドレーン管理・膀胱留置カテーテル管理 (3)術後合併症予防の方法	
15	全期	1) 授業総括 2) 科目試験(60分)		
成績評価方法		(富永)筆記試験40点、レポート課題25点 提出期限を守らない場合は0点とする。 (神野)筆記試験35点		
準備学習など		講義前には予習・復習を積極的に行うこと。		
関連科目				
留意事項		この科目は、周手術期・回復期の看護を学ぶ上で必要な知識となる科目です。予習・復習を自主的に行い、積極的に学ぶ姿勢で受講してください。また、看護は広い学習が必要です。日頃から保健・医療・福祉に関する新聞記事やニュースなどの報道に関心を持ち、色々なことに関心を持ち、多くの体験と学習をして視野を広げ、自己の問いを育む姿勢で学習を深めていきましょう。		

学科・学年	看護科 2年次
科目名	病気と共に生きる成人を支えるⅤ がん看護・緩和ケア
担当者	酒井 幸子 / 橋本 かの子 / 藤原 裕子 / 兼山美千代
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	系統看護学講座 成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 成人看護学②～⑭ 医学書院 系統看護学講座 別巻 がん看護 医学書院 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院 系統看護学講座 基礎看護学④ 臨床看護総論 医学書院

<p>授業概要と目的</p> <p>がん治療の進歩とともに1人ひとりに最適な治療が行われ、がん患者の生存率が高まり暮らしの中でがんとともに生きていくがんサバイバーに対する施策にも力が注がれている。この科目では、患者と家族の暮らしの中に安全・安心な治療が行われるために必要な基礎的な知識を学ぶ。治療と看護では、放射線療法と化学療法を学び、緩和ケアにおいては、緩和ケアの考え方と実際の疼痛コントロールについて学ぶ。また、終末期は、終末期における患者や家族を含めた看護の考え方と実際を学ぶ。</p> <p>看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。</p>
<p>関連する学科のDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・命を尊び、一人ひとりがかげがえのない存在であることを理解できる能力</li> <li>・多様性や柔軟性を備えた人間性と科学的根拠を用いた臨床判断能力</li> <li>・看護の場における健康上の課題を明確にし、看護実践できる能力</li> <li>・チーム医療の中で多職種と連携し、看護師の役割を果たす能力</li> </ul>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	全期	・終末期看護の特徴を理解する。	・終末期にある対象と終末期看護の考え方を述べるができる。	兼山 美千代
2	全期	・終末期の症状とケアを理解する。	・終末期の身体的・精神的苦痛と必要なケアを討議することができる。	
3	全期	・がん患者を取り巻く実際を理解する。	・がんの三大治療法について述べるができる。 ・全人的苦痛について述べることができる。	橋本 かの子
4	全期		・心理的・社会的サポートの必要性を述べるができる。 ・患者を支える家族への支援をロールプレイで実施できる。	
5	全期		・血液がんの事例を通して薬物療法における看護について理解する。 ・血液がんの病態、検査、治療について説明できる。 ・薬物療法における副作用について述べるができる。 ・初回投与をうける患者の注意点を述べることができる。 ・薬物療法の留意点について述べるができる。	

6	全期	・脳腫瘍患者の事例を通して放射線療法 の看護について理解する。	・脳腫瘍の病態、検査、治療について説明 できる。 ・放射線療法を受ける患者の注意点を述 べることができる。 ・放射線療法における副作用を述べるこ とができる。 ・放射線療法における留意点を述べるこ とができる。	橋本 かの子
7	全期	・がん患者を取り巻く看護問題を理解す る。	・外来と入院での患者支援を比較できる。 ・症例をもとに看護問題として苦痛を1つ 選択し、症状緩和するための方法を討議 できる。	
8	全期	・事例を通して消化器系がんの病態を 理解し、病態、病期、検査、治療を理 解する。	・消化器系がんの病態、病期、検査、治 療を説明できる。	
9	全期	・事例を通して終末期の消化器系がん 患者の全人的苦痛を理解する。	・終末期の消化器系がん患者の苦痛を身 体的側面、精神的側面、社会的側面、霊 的側面の4つの視点について述べるこ とができる。	藤原 裕子
10	全期	・事例を通して終末期の消化器系がん 患者の看護問題に気付き、苦痛緩和の 看護援助を理解する。	・終末期の消化器系がん患者の看護問 題を述べることができる。 ・終末期の消化器系がん患者とその家 族の苦痛緩和について述べるこ とができる。	
11	全期	・緩和ケアの考え方を理解する。	・緩和ケアの歴史的背景や疾患の広がり や全人的苦痛について述べるこ とができる	
12	全期	・疼痛コントロールの看護を理解する。	・がん性疼痛のアセスメントとケア・治 療の特徴を述べるこ とができる。	
13	全期	・緩和ケア・終末期ケアにおける家族 の看護を理解する。	・終末期患者の家族の特徴と必要な 看護について討議することができる (グリーフケア)。	
14	全期	・緩和ケア・終末期ケアにおける社会 資源・ACPの考え方を理解する。	・緩和ケア、終末期に利用できる社会 資源やアドバンス・ケア・プラン ニングの考え方を説明できる。	酒井 幸子
15	全期	1) 授業総括 2) 科目試験(60分)		兼山 美千代
成績評価方法	(酒井)筆記試験40%、(橋本)筆記試験30%、(藤原)課題20% (兼山)筆記試験10%			
準備学習など				
関連科目				
留意事項				

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 2年次
科目名	高齢者の健康を支える I 健康障害をもつ高齢者を支える看護
担当者	真木 裕加里 横山 美由紀
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	対面講義・グループワーク
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院

授業概要と目的

健康障害をもつ高齢者を総合的に捉え、その高齢者と家族への看護を理解するとともに、健康レベルに合わせた看護の役割を学ぶことを目的とする。

看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。

関連する学科のDP

- ・多様性や柔軟性を備えた人間性と科学的根拠を用いた臨床判断能力
- ・看護の場における健康上の課題を明確にし、看護実践できる能力
- ・チーム医療の中で多職種と連携し、看護師の役割を果たす能力

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	前期	骨粗鬆症・骨折のある高齢者の看護について理解する。	・骨粗鬆症の理解をし、高齢者の3大骨折を説明できる。 ・治療や予防において看護師として指導するうえで必要なことを述べるができる。	真木 裕加里
2	前期	パーキンソン病・慢性硬膜下血腫のある高齢者の看護について理解する。	・疾患の理解をし、パーキンソン病について述べるができる。 ・疾患から必要な看護を考える。	真木 裕加里
3	前期	高齢者のリハビリテーションにおける看護の役割を理解する。	・高齢者の身体機能の特徴を理解し、リハビリテーション時の看護を説明できる。	横山 美由紀
4	前期	高齢者の継続看護の役割について理解する。	・高齢者の入院から退院後も継続して看護が受けられる継続看護について説明ができる。	真木 裕加里
5	前期	うつ・せん妄・認知症高齢者の看護について理解する。	・うつ・せん妄・認知症の疾患や疾患における特徴的な看護を説明ができる。	真木 裕加里
6	前期	肺炎・COPD・心不全のある高齢者の看護について理解する。	・高齢者に特徴的な疾患、予防の必要性、看護について説明ができる。	真木 裕加里
7	前期	熱中症・脱水症にある高齢者の看護について理解する。	・疾患について説明ができる。 ・疾患の予防や対応について理解し、必要な看護について考える。	横山 美由紀

8	前期	排泄機能障害のある高齢者の看護について理解する。	高齢者における排泄機能障害について理解し、症状に合わせた看護を説明できる。	真木裕加里
9	前期	高齢者の救命救急場面における看護師の役割を理解する。	・高齢者に特徴的な救急の場面をしり、必要な看護について述べる。	真木裕加里
10	前期	白内障・視覚障害のある高齢者の看護について理解する。	・高齢者の特徴を理解し、疾患の説明ができる。 ・手術を受ける高齢者患者の看護を述べる。	横山美由紀
11	前期	高齢者のアクティビティを考え、企画する。 ①	・対象に合わせたアクティビティの目的を考える。 ・対象に合わせたアクティビティを企画する。	真木裕加里
12	前期	高齢者のアクティビティを考え、企画する。 ②		真木裕加里
13	前期	高齢者のアクティビティを実践する。	・対象に合わせたアクティビティを実践し、振り返ることができる。	真木裕加里
14	前期	加齢に伴う薬物療法の注意事項と看護について理解する。	・加齢に伴う薬物動態の変化・有害事象について理解する。 ・高齢者におけるアドヒアランスを高めるための指導を考え、説明できる。	真木裕加里
15	前期	1)授業総括 2)科目試験(60分)		真木裕加里
成績評価方法		筆記試験80点、アクティビティ20点の合計100点の評価とする。		
準備学習など				
関連科目				
留意事項				

学科・学年	看護科 2年次
科目名	高齢者の健康を支えるⅡ もてる力を活かす看護技術
担当者	岩田 幸代 天白 陽介
単位数(時間数)	1単位 (15時間)
学習方法	講義 演習
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 医学書院

<p>授業概要と目的</p> <p>加齢による機能低下や疾病・障害のある高齢者では、日常生活動作の能力が低下することが少なくない。老年期の生活機能を理解し、高齢者の健康状態に合わせた安全、かつもてる力を最大限に活かした自律した暮らしに焦点を当てたアセスメントと高齢者がその人らしく暮らすことを支えるための基礎的な知識・技術・態度を習得する。</p> <p>看護師・言語聴覚士として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。</p> <p>関連する学科のDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様性や柔軟性を備えた人間性と科学的根拠を用いた臨床判断能力</li> <li>・看護の場における健康上の課題を明確にし、看護実践できる能力</li> </ul>
--

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	前期	1. 日常生活を支える基本的活動を理解する。 2. 高齢者の転倒のアセスメントと看護を理解する。	1) 高齢者の生活の基本となる日常生活動作と評価を述べる。 (バーセルインデックス、カツインデック、FIM) 2) 高齢者の転倒リスクのアセスメントを行う。 3) 転倒予防に向けた援助を述べる。	岩田幸代
2	前期	1. 高齢者の廃用症候群のアセスメントと看護を理解する。 2. 廃用症候群の早期予防について理解する。	1) 高齢者の廃用症候群のアセスメントを行う。 2) 廃用症候群の早期発見と予防に向けた看護を述べる。	
3	前期	3. 廃用症候群の早期予防のための援助を習得する。	1) 廃用症候群の予防のための援助を実施する。 2) 褥瘡予防ケアを実施する。	
4	前期	1. 高齢者の摂食・嚥下を理解する。 2. 高齢者の摂食嚥下障害を理解する。	1) 摂食嚥下とは何かを述べる。 2) 摂食嚥下のメカニズムを述べる。 3) 加齢による摂食嚥下障害を述べる。 4) 摂食嚥下障害による弊害を述べる。	天白陽介
5	前期	1. 加齢に伴い生じる排泄機能の変化や障害を理解する。 2. 排泄障害時のアセスメントと看護を理解する。 3. 摘便の援助を習得する。	1) 加齢に伴う排泄機能の変化を述べる。 2) 排泄困難の主な要因を述べる。 3) 尿失禁に対するアセスメントと看護を述べる。 4) 便秘に対するアセスメントと看護を述べる。	岩田幸代

6	前期		1) 摘便の援助方法について理解する。 2) オムツを使用して摘便を実施する。	
7	前期	1. 生活リズムのアセスメントができる。 2. 生活リズムを整える看護を理解する。 3. コミュニケーション能力のアセスメントができる。 4. 高齢者の状態・状況に応じたコミュニケーションの方法を理解する 5. 高齢者におけるセクシャリティを理解する。	1) 高齢者に見られる睡眠の障害と影響を述べる。 2) 活動・休息のアセスメントと看護を述べる。 3) コミュニケーション能力のアセスメントに必要な情報を述べるができる。 4) コミュニケーション能力のアセスメントと看護を実施できる。 5) 状態・状況に応じたコミュニケーションの方法を述べる。 6) 高齢者のセクシャリティについて述べる。	岩田 幸代
8	前期	科目試験(45分)		
成績評価方法		筆記試験(80%) レポート課題(20%)		
準備学習など				
関連科目				
留意事項				

学科・学年	看護科 2年次 後期
科目名	高齢者の健康を支えるⅢ 事例から学ぶ
担当者	春日井 美知代
単位数(時間数)	1単位 (16時間)
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院 老年看護ぜんぶガイド 照林社

授業概要と目的

健康障害を持つ高齢者の事例を用いて、老年看護学の既習の知識を活用し、高齢者の生活行動モデルによる看護過程や目標志向型思考の考え方を学ぶ。また、事例を通して高齢者の特徴を踏まえたアセスメント、看護の焦点、看護計画立案など高齢者の看護過程の一連を演習を通じて身につける。

看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。

関連する学科のDP

- ・多様性や柔軟性を備えた人間性と科学的根拠を用いた臨床判断能力
- ・看護の場における健康上の課題を明確にし、看護実践できる能力
- ・チーム医療の中で多職種と連携し、看護師の役割を果たす能力

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	高齢者の特徴を活かした目標志向型思考の看護過程の考え方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の特徴を活かした目標志向型思考の看護過程の考え方について述べる。</li> <li>・目標志向型思考と問題解決型思考の違いを述べる。</li> <li>・高齢者の生活機能を述べる。</li> </ul>	春日井美知代
2	後期	生活行動モデルによる看護過程を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活行動モデルによる看護過程の目的を述べる。</li> <li>・老年看護で生活行動モデルが用いる意味を述べる。</li> <li>・生活行動モデルの視点を述べる。</li> </ul>	
3	後期	施設で暮らす高齢者の身体・心理・社会の3側面を理解する。	・DVDの視聴から施設的环境や施設で暮らす高齢者の3側面を述べる。	
4	後期	「大腿骨頸部骨折が既往にある認知症高齢者」の看護過程を展開する。(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の特徴を踏まえた「活動・休息」の生活行動の視点を述べる。</li> <li>・高齢者の特徴を踏まえた「活動・休息」のアセスメントを記述する。</li> </ul>	

5	後期	「大腿骨頸部骨折が既往にある認知症高齢者」の看護過程を展開する。(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の特徴を踏まえた「食事・排泄」の生活行動の視点を述べる。</li> <li>・高齢者の特徴を踏まえた「食事・排泄」アセスメントを記述する。</li> </ul>	春日井美知代
6	後期	「大腿骨頸部骨折が既往にある認知症高齢者」の看護過程を展開する。(3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の特徴を踏まえた「身じたく・コミュニケーション」の生活行動の視点を述べる。</li> <li>・高齢者の特徴を踏まえた「身じたく・コミュニケーション」アセスメントを記述する。</li> </ul>	
7	後期	「大腿骨頸部骨折が既往にある認知症高齢者」の看護過程を展開する。(4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例患者の看護の焦点を明確化できる。</li> <li>・高齢者の特徴を踏まえ看護の優先順位を述べる。</li> <li>・高齢者の特徴を踏まえた看護計画の立案を記述する。</li> </ul>	
8	後期	「高齢者のその人らしさを支える看護」について理解をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習を通して個々の老年観を話し合い、高齢者のその人らしさを支える看護とは何かを述べる。</li> </ul>	
成績評価方法		看護過程演習課題提出状況(90%) 授業参加(10%)		
準備学習など		老年看護学概論、高齢者の健康を支えるⅡの学習内容を復習しておく。		
関連科目				
留意事項				

学科・学年	看護科 2年次
科目名	子どもと家族を支えるⅠ 病気の子どもと家族を支える看護
担当者	加藤 衣津美 田中 敏彦
単位数(時間数)	1単位 (15時間)
学習方法	講義・グループワーク演習
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野 小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児臨床看護各論 小児看護学② 医学書院

<p>授業概要と目的</p> <p>健康障害をもつ子どもと家族への看護援助の方法について学ぶ。さまざまな回復過程にある健康障害をもつ子どもとその家族に必要な看護援助の方法を習得する。児童虐待の現状及び障害のある子どもと家族の看護と看護師の役割を理解し、子どもと家族への支援の目的と方法を学ぶ。</p> <p>看護師・作業療法士として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。</p> <p>関連する学科のDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・命を尊び、一人ひとりがかけがえない存在であることを理解できる能力</li> <li>・多様性や柔軟性を備えた人間性と科学的根拠を用いた臨床判断能力</li> <li>・看護の場における健康上の課題を明確にし、看護実践できる能力</li> </ul>
---

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	前期	子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護 ・入院中の子どもと家族の看護を理解する。	(1) 入院中の子どもと家族の看護 ①入院環境と小児看護の役割を述べる。 ②入院中の子どもと家族の特徴と看護について述べる。	加藤 衣津美
2	前期	子どもの疾病の経過に特徴づけられる看護(1) 1) 慢性期にある子どもと家族の看護の目的と方法を理解する。	(1) 慢性期の子どもの看護 ①慢性期の子どもの看護の特徴を述べる。 ②症状がある子どもと家族の看護について説明する。 ・子どものセルフケア能力～I型糖尿病事例～	
3	前期	子どもの疾病の経過に特徴づけられる看護(2) 2) 急性期にある子どもと家族の看護の目的と方法を理解する。	(2) 急性期にある子どもと家族の看護 ①急性期にある子どもと家族の看護の特徴を述べる。 ②急性期症状がある子どもと家族の看護について説明する。 ・脱水(嘔吐、下痢)症状 ・けいれん ・ショック症状 ③外傷や急病に対する応急処置についての基礎知識と技術を説明する。 ・異物誤飲 ・熱傷	

4	前期	子どもの疾病の経過に特徴づけられる看護(3) 3) 周手術期にある子どもと家族の看護の目的と方法を理解する。	(3) 周手術期にある子どもと家族の看護 ①周手術期にある子どもと家族の看護について説明する。 ・プリパレーション	
5	前期	子どもの疾病の経過に特徴づけられる看護(4) 4) 終末期にある子どもと家族の看護の目的と方法を理解する。	(4) 終末期の子どもと家族の看護 ①終末期の子どもと家族の看護について述べる。 ・意思決定支援 ・インフォームドコンセント、インフォームドアセント ・子どもの死生観 ②終末期症状のある子どもと家族の看護について説明する。 ・疼痛	加藤 衣津美
6	前期	子どもの虐待と看護 ・虐待と看護について理解する。	(1) 虐待を受けている可能性のある子どもと家族の看護 ①虐待の定義を述べる。 ②子ども虐待の経緯と現状を述べる。 ③リスク要因と発生予防・早期発見を説明する。 ④子どもの虐待の特徴的に見られる状況を述べる。 ⑤ 被虐待児および家族の看護について述べる。	
7	前期	障害のある子どもと家族の看護 ・障害のある子どもの看護について理解する。	(1)心身障害のある子どもと家族の看護 ①障害のとらえ方を述べる。 ②障害のある子どもと家族の特徴を述べる。 ③障害のある子どもと家族への社会的支援を述べる。	田中 敏彦
8	前期	科目試験(45分)		加藤 衣津美
成績評価方法		テスト:加藤(90%)田中(10%)		
準備学習など				
関連科目				
留意事項				

学科・学年	看護科 2年次
科目名	子どもと家族を支えるⅡ 子どもの力を引き出す看護技術
担当者	小松 陽子
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義、演習
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野 小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児臨床看護各論 小児看護学② 医学書院 写真でわかる 小児看護技術アドバンス インターメディカ

<p>授業概要と目的</p> <p>子どもの成長発達過程の評価や疾病の早期発見、健康の維持・増進、疾病の回復を目的とした客観的情報を得るための身体アセスメントの方法を理解する。子どもへの検査・処置の目的、発達段階による方法の違いや症状による子どもの反応を理解し、子どもの持っている力を考えながら、子どもと家族への援助方法を学ぶ。</p> <p>看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。</p> <p>関連する学科のDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様性や柔軟性を備えた人間性と科学的根拠を用いた臨床判断能力</li> <li>・看護の場における健康上の課題を明確にし、看護実践できる能力</li> </ul>
--

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	全期	「子どものアセスメント技術の目的と方法」(1) ・子どものアセスメント技術を理解する	「子どものアセスメント」 (1)アセスメントに必要な技術について説明する ①子どもや家族とのコミュニケーション ②観察の視点 ③子どもが持つ力の捉え方	小松 陽子
2	全期	「子どものアセスメント技術の目的と方法」(2) ・子どものアセスメント技術を習得する	「身体アセスメント技術」 (1)乳幼児のバイタルサイン測定ができる (2)乳幼児の身体計測と成長発達の評価ができる	
3	全期			
4	全期	「子どものアセスメント技術の目的と方法」(3) ・子どものアセスメント技術を理解する	(3)身体アセスメントの方法を述べる ①一般状態 ②口腔内、耳、鼻 ③呼吸 ④心血管系 ⑤腹部 ⑥筋・骨 ⑦皮膚・爪	
5	全期	「急性期症状のある子どもと家族の看護」(1) ・急性期症状のある子どもと家族の看護の目的と方法を理解する	「急性期症状がある子どもと家族の看護」 (1)発熱時の看護について説明する ①発熱に伴う主な症状 ②発熱している子どもと家族の看護	
6	全期	「急性期症状のある子どもと家族の看護」(2) ・急性期症状のある子どもと家族の看護の目的と方法を理解する	(2)脱水(嘔吐・下痢)の看護について説明する ①子どもの脱水に伴う症状 ②脱水状態にある子どもと家族の看護	

7	全期	「急性期症状のある子どもと家族の看護」(3) ・急性期症状のある子どもと家族の看護の目的と方法を理解する	(3)けいれん時の看護について説明する ①けいれんの原因と種類 ②けいれんを伴う子どもと家族の看護	小松陽子	
8	全期	「急性期症状のある子どもと家族の看護」(4) ・急性期症状のある子どもと家族の看護の目的と方法を理解する	(4)呼吸困難時の看護について説明する ①呼吸困難の原因 ②呼吸困難を伴う子どもと家族の看護		
9	全期	「急性期症状のある子どもと家族の看護」(5) ・急性期症状のある子どもと家族の看護の目的と方法を理解する	「救急時の子どもと家族の看護」 (1)事故・外傷の特徴について説明する ①ショック症状 (2)外傷や急病に対する応急処置について説明する ①異物誤飲 ②熱傷		
10	全期	「障がいのある子どもと家族の看護」 ・障がいのある子どもと家族の看護の目的と方法を理解する	「重症心身障害のある子どもと家族の看護」 (1)重症心身障害児のケアについて説明する ①身体の支え方 ②オムツ交換 ③医療的ケア(経管栄養)		
11	全期	「子どもの発達に応じた検査・処置における看護技術」(1) ・子どもの発達に応じた検査・処置における看護技術を理解する	「検査・処置を受ける子どもと家族の看護」 (1)検査・処置を受ける子どもに最善の利益が得られる援助について説明する ①検査・処置を受ける子どもと家族の理解 ②子どもへの説明と同意 ③プレパレーション、ディストラクション ④診察の介助		
12	全期	「子どもの発達に応じた検査・処置における看護技術」(2) ・子どもの発達に応じた検査・処置における看護技術を習得する	(2)検査・処置を受ける子どもと家族の援助が実施できる ①採尿、採血 ②腰椎穿刺、骨髄穿刺		
13	全期	「子どもの発達に応じた検査・処置における看護技術」(3) ・子どもの発達に応じた検査・処置における看護技術を習得する	③与薬(経口、坐薬)、グリセリン浣腸 ④吸入療法		
14	全期	「子どもの発達に応じた検査・処置における看護技術」(4) ・子どもの発達に応じた検査・処置における看護技術を習得する	⑤輸液管理・シーネ固定 ⑥輸液ポンプ・シリンジポンプの取り扱い方法		
15	全期	1)授業総括 2)科目試験(60分)			
成績評価方法		筆記試験・課題(100%) *評価配点については授業内に説明する。			
準備学習など		「身体が見える病態治療学(小児)」、「子どもと家族を支えるI」の学習内容および教科書・参考書を用いて予習を行い、授業内での演習と振り返りを通して理解を深めることを基本とします。			
関連科目					
留意事項					

学科・学年	看護科 2年次
科目名	子どもと家族を支えるⅢ 子どもの命を守る臨床判断
担当者	三島 元美 小松陽子
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義 演習
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野 小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児臨床看護各論 小児看護学② 医学書院 写真でわかる 小児看護技術アドバンス インターメディカ

<p>授業概要と目的</p> <p>実習中に多く出会う疾患や国家試験に多く出題される疾患を取り上げ、健康障害をもつ子どもとその家族に対する看護展開を行い、臨床判断のプロセスを学ぶ。</p> <p>看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。</p> <p>関連する学科のDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様性や柔軟性を備えた人間性と科学的根拠を用いた臨床判断能力</li> <li>・看護の場における健康上の課題を明確にし、看護実践できる能力</li> <li>・チーム医療の中で多職種と連携し、看護師の役割を果たす能力</li> </ul>
---

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	後期	「小児看護における看護過程」 ・小児看護過程の特徴と外来看護への応用について理解する	「小児看護過程の特徴と外来看護への応用」 (1)小児看護過程の特徴について述べる (2)外来看護の特徴について述べる ①外来の環境 ②受診する子どもと家族の特徴 ③外来における子どもと家族の看護	小松陽子
2	後期	「症状を示す子どもの看護、健康障害をもつ子どもと家族への看護援助」(1) ・事例を通して健康障害を持つ子どもと家族への看護援助を理解する	「急性胃腸炎で外来を受診した子どもと家族の事例-看護展開」 (1)出会いの場面で必要な看護について記述できる	
3	後期			
4	後期		(2)診察場面で必要な看護について記述できる	
5	後期		(3)検査・処置場面で必要な看護について記述できる	
6	後期		(4)在宅療養の指導場面で必要な看護について記述できる	
7	後期		「急性胃腸炎で外来を受診した子どもと家族の事例-演習」	

8	後期		(1)考えた看護についてロールプレイができる (2)ロールプレイの振り返りや学びを記述できる	
9	後期	「症状を示す子どもの看護、健康障害をもつ子どもと家族への看護援助」 ・事例を通して健康障害を持つ子どもと家族への看護援助を理解する。	(1)気管支喘息のこどもと家族の事例 ①気管支喘息の特徴的な症状を述べる ②気管支喘息の治療について述べる	三島 元美
10	後期		③ロールプレイを通して、気管支喘息の急性期にあるこどもと家族への看護を考える	
11	後期			
12	後期		④退院に向けて気管支喘息のこどもと家族に必要な指導を考える	
13	後期			
14	後期		⑤ロールプレイを通して、気管支喘息の慢性期にあるこどもと家族へ看護を振り返る	
15	後期			
成績評価方法		三島:提出物(50%) 小松(50%)		
準備学習など		身体が見える病態治療学IX、子どもと家族を支えるI・IIの学習内容を復習しておく。 授業時に上記の授業資料を持参すること。		
関連科目				
留意事項				

学科・学年	看護科 2年次
科目名	女性と家族を支えるⅠ 妊娠期、分娩期
担当者	沖 玉恵
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義 演習
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野 母性看護学② 母性看護学各論 医学書院 ウェルネスからみた母性看護過程+病態関連図 医学書院 根拠と事故防止からみた母性看護技術 医学書院

<p>授業概要と目的</p> <p>妊娠・分娩期のメカニズムとその特徴 および健康問題を理解し、妊産婦の身体的・精神的・社会的変化に適応するためのセルフケア、健康増進やマインートラブルおよび家族を支える看護を実践するための基礎的能力を習得する。</p> <p>助産師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。</p>
<p>関連する学科のDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様性や柔軟性を備えた人間性と科学的根拠を用いた臨床判断能力</li> <li>・看護の場における健康上の課題を明確にし、看護実践できる能力</li> </ul>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	前期	<p>「妊娠とは」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠期における妊婦・胎児の生理的变化とその看護について理解できる。</li> </ul> <p>「妊娠期の異常と看護」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠期の異常および妊婦への看護について理解できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠期間の定義を述べることができる。</li> <li>・妊娠成立後の徴候について述べるができる。</li> </ul>	沖 玉恵
2	前期		<ul style="list-style-type: none"> <li>・胎児の発育及び健康状態について述べるができる。</li> <li>・胎盤と羊水の生理について述べるができる。</li> </ul>	
3	前期		<ul style="list-style-type: none"> <li>・妊婦の身体的、精神的、社会的変化について述べるができる。</li> <li>・家族の心理的および社会的変化、愛着形成について述べるができる。</li> </ul>	
4	前期		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハイリスク妊娠について述べるができる。</li> <li>・妊娠期の感染症について述べるができる。</li> <li>・妊娠糖尿病について述べるができる。</li> </ul>	
5	前期		<ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠高血圧症候群について述べるができる。</li> <li>・血液型不適合妊娠について述べるができる。</li> <li>・多胎妊娠について述べるができる。</li> <li>・妊娠持続期間の異常について述べるができる。</li> </ul>	

6	前期		<ul style="list-style-type: none"> <li>・妊婦健康診査について説明することができる。</li> <li>・妊娠経過に伴うアセスメントをすることができる。</li> </ul>	沖 玉 恵	
7	前期	「妊娠期の看護」 ・妊娠期の看護に必要な知識と技術について理解できる。	・妊婦への保健指導の適切な時期と内容について述べるができる。		
8	前期		・レオポルド触診法、子宮底・腹囲測定を実施することができる。(演習)		
9	前期				
10	前期		<ul style="list-style-type: none"> <li>・分娩の三要素について述べるができる。</li> <li>・産婦の身体的変化について述べるができる。</li> </ul>		
11	前期	「分娩三要素」 「分娩経過と分娩の機序」 ・分娩期の生理的な経過について理解できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分娩経過について述べるができる。</li> <li>・分娩期のアセスメントの視点について述べるができる。</li> </ul>		
12	前期	「分娩期の看護」 ・産婦への看護について理解できる。	・分娩第Ⅰ期～Ⅳ期の看護について述べるができる。		
13	前期		・産道、娩出力、娩出物の以上について述べるができる。		
14	前期	「分娩期の異常と看護」 ・分娩期の異常および産婦への看護について理解できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・胎児機能不全について述べるができる。</li> <li>・分娩時異常出血について述べるができる。</li> <li>・産科処置と産科手術について述べるができる。</li> </ul>		
15	前期	1)授業総括 2)科目試験(60分)			
成績評価方法	筆記試験(75%) パフォーマンス課題によるルーブリック評価(25%)				
準備学習など	母性看護学に関連のある人体構造機能学、疾病治療学を復習しておくこと。				
関連科目					
留意事項					

学科・学年	看護科 2年次
科目名	女性と家族を支えるⅡ 産褥期、新生児期
担当者	川村 恵美
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	系統看護学講座 母性看護学概論 母性看護学1 医学書院 系統看護学講座 母性看護学各論 母性看護学2 医学書院 ウェルネスからみた母性看護過程+病態関連図 医学書院 根拠と事故防止からみた母性看護技術 医学書院

<p>授業概要と目的</p> <p>妊娠・分娩・産褥各期は女性の一生の中で心身ともにダイナミックに変化する時期である。そこに看護師として関わる際に必要な基礎知識と技術を、ここでは特に産褥期に焦点を当てて学ぶ。また家族が増えるということは、褥婦を取り巻く環境にどう影響を及ぼすのか、褥婦は環境の影響をどのように受けるのか、出産した後に心身ともに健康な状態で育児を行っていくには看護師としてどのように関わっていく必要があるかを考え、その看護を実践する基本的知識と技術を学ぶ。さらに新生児が出生直後から子宮外生活適応をしていくために必要な基本的知識と技術を学ぶ。</p> <p>助産師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。</p>
<p>関連する学科のDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様性や柔軟性を備えた人間性と科学的根拠を用いた臨床判断能力</li> <li>・看護の場における健康上の課題を明確にし、看護実践できる能力</li> </ul>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	全期	1. 産褥期の生理的特徴について理解する。－退行性変化・進行性変化－ 2. 産褥期の経目的変化について理解する。	1. 産褥の定義を述べる。 2. 産褥の子宮復古・悪露の経過を述べる。 3. 産褥の全身復古の経過を述べる。 4. 乳汁分泌のしくみを述べる。	川村 恵美
2	全期	1. 産褥期の生理的特徴について理解する。－心理・社会的変化－	1. 母親としての適応過程を述べる。 2. 母子相互作用について述べる。 3. 家族が増えることによる関係性変化を述べる。	
3	全期	1. 全身の回復・子宮復古促進への看護について理解する。 2. 乳汁分泌促進への看護について理解する。	1. 褥婦看護の目的を述べる。 2. 子宮復古促進への援助を述べる。 3. 乳汁分泌促進への援助を述べる。	
4	全期	1. 産褥期に必要な保健指導について理解する。 2. 家族関係再構築への看護について理解する。	1. 退院後の生活・育児に必要な保健指導を述べる。 2. 子育て支援の必要性を述べる。 3. 夫・家族の役割について述べる。	
5	全期	産褥期の異常と看護について理解する。	1. 子宮復古不全の原因・症状を述べる。 2. 乳房トラブルの種類と原因を述べる。 3. 産褥期精神障害について述べる。	
6	全期	1. 退行性変化への援助技術を理解する。 2. 進行性変化への援助技術を理解する。	1. 産褥子宮底が確認できる。 2. 悪露の状態が確認できる。 3. 会陰部の状態が確認できる。 4. 全身の復古状態が確認できる。 5. 乳房の観察ができる。 6. 乳房の型に適した授乳方法を実施できる。	

7	全期	1. 新生児の生理・特徴を理解する。 －呼吸、循環－	1. 新生児の定義・分類を述べる。 2. 新生児の呼吸・循環の特徴を述べる。	川村 恵美
8	全期	1. 新生児の生理・特徴を理解する。 －消化・吸収、腎機能、黄疸、免疫、 皮膚、反射－	1. 新生児の便・尿の特徴を述べる。 2. 生理的黄疸のメカニズムを述べる。 3. 原始反射の種類・誘発方法・消失時期を述 べる。	
9	全期	1. 出生直後の看護について理解する。	1. 新生児看護の目的を述べる。 2. 新生児看護の原則について述べる。 3. 出生直後の評価について述べる。 4. 成熟徴候を3つ以上述べる。	
10	全期	1. 日常の新生児看護について理解する。	1. 生理的黄疸の観察方法を3つ述べる。 2. 生理的体重減少のメカニズムを述べる。 3. 生理的体重減少の算出方法を述べる。	
11	全期	1. 新生児の異常と看護について理解す る。	1. 新生児仮死の病態、看護を述べる。 2. 低出生体重児の特徴と看護を述べる。 3. 高ビリルビン血症の原因を2つ以上述べる。 4. 高ビリルビン血症の検査・治療を述べる。	
12	全期	1. 新生児の基本的看護技術について理 解し、実施に結びつけることができる。	1. 新生児のバイタルサイン測定ができる。 2. 新生児の全身の観察ができる。 3. 新生児の身体計測ができる。	
13	全期	1. 新生児の基本的看護技術について理 解し、実施に結びつけることができる。	1. 新生児を安全に抱くことができる。 2. 新生児の着替え・おむつ交換ができる。 3. 人工乳の調乳ができる。	
14	全期	1. 新生児の清潔ケアについて理解し実 施に結びつけることができる。	1. 新生児の清潔ケアの必要性を述べる。 2. 安全に配慮した沐浴を実施できる。	
15	全期	1) 授業総括 2) 科目試験(60分)		
成績評価方法	筆記試験(70%) レポート課題(30%)			
準備学習など	授業後には復習を積極的に行うこと。			
関連科目				
留意事項	母性看護学では学習内容および経験した事が国家試験に直結します。 母性看護学実習に必須の知識・技術習得となるため、真剣に取り組むこと。			

学科・学年	看護科 2年次
科目名	女性と家族を支えるⅢ 事例から学ぶ
担当者	佐野詳子
単位数(時間数)	1単位 (15時間)
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	系統看護学講座 母性看護学概論 母性看護学1 医学書院 系統看護学講座 母性看護学各論 母性看護学2 医学書院 ウエルネスからみた母性看護過程+病態関連図 医学書院 根拠と事故防止からみた母性看護技術 医学書院
授業概要と目的	
<p>この科目は母性看護における看護過程がわかることを目的とし、褥婦および新生児の看護過程の講義と演習を行う。講義では妊娠・分娩・産褥の各期のウエルネスの考え方を学ぶ。その後演習にて、事例を用いて各期が正常な状態で経過しているか否かを分析・解釈し、産褥・新生児に適切と考えられるケア計画の立案を行う。正常な経過をたどっているかを正確に判断できることは異常の早期発見につながり、その後の母子保健に大きく関わることを理解し、母性看護実践について学ぶ。</p> <p>助産師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。</p>	
関連する学科のDP	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様性や柔軟性を備えた人間性と科学的根拠を用いた臨床判断能力</li> <li>・看護の場における健康上の課題を明確にし、看護実践できる能力</li> </ul>	

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	1. 母性看護の対象の特性に応じた看護過程の概要を理解する。	1. ウエルネスの考え方を述べる。 2. マタニティサイクルにおける対象者を述べる。	佐野詳子
2	後期	1. 妊娠期の看護過程の概要を理解する。	1. 事例より妊婦の特徴をふまえて妊娠期の経過判断が記述できる。	
3	後期	1. 分娩期の看護過程の概要を理解する。	1. 事例より産婦の特徴をふまえて分娩期の経過判断が記述できる。	
4	後期	1. 産褥期の看護過程の概要を理解する。	1. 事例より褥婦の特徴をふまえて産褥期の経過判断が記述できる。	
5	後期	1. 新生児の看護過程の概要を理解する。	1. 事例より新生児の特徴をふまえて新生児の経過判断が記述できる。	
6	後期	1. 産褥・新生児に適した看護ケアを理解する。	1. 褥婦・新生児のウエルネスが実現するための看護計画を立案し、記述できる。	
7	後期	1. 家族に適した看護ケアを理解する。	1. 事例の褥婦・新生児の家族にはどのような支援が必要か考え記述できる。	

8	後期	科目試験(45分)	
成績評価方法	筆記試験(30%) レポート提出状況(70%)		
準備学習など	授業前後には予習・復習を積極的に行うこと。		
関連科目	女性と家族を支える、女性と家族を支えるⅡ(妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期)		
留意事項	褥婦・新生児を深く理解するために必要な科目です。この科目以前に学んでいる他の母性看護学の授業内容をしっかりと復習し活用すること。		

学科・学年	看護科 2年次
科目名	こころを支えるⅠ こころのとらえ方と技術
担当者	吉田圭子
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学① 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学② 精神看護の展開 医学書院

授業概要と目的

この科目は精神看護技術を学ぶうえでの基礎となる科目である。健全なこころの働きについて理解し現代社会における精神保健活動の課題を学ぶ必要があること、また保健医療労働者の約半分が悩まされているとされる身体的精神的暴力に対して、その介入法である包括的暴力防止プログラム(CVPPP)や、対処技能を修得することでストレスと脆弱性の影響をやわらげる技術である生活技能訓練(SST)などを学び、精神科のリスクマネジメントを基礎として「こころの動き」に配慮した対応ができる技術の基礎と考え方を学ぶ。

看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。

関連する学科のDP

- ・多様性や柔軟性を備えた人間性と科学的根拠を用いた臨床判断能力
- ・看護の場における健康上の課題を明確にし、看護実践できる能力

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	前期	ケアの人間関係1 精神科における患者－看護師関係、関係性の構築(ロジャース ペプロウトラベルビー)について理解する。	ケアの人間関係 前提 原則 方法が理解できる。精神科コミュニケーション技術を述べる。	吉田圭子
2	前期	ケアの人間関係2 精神科における関係のアセスメント、プロセスレコードの読み方や活用について理解する。	プロセスレコードを読んで、プロセスレコードを用いた会話分析を知ることができる。	
3	前期	ケアの人間関係3 プロセスレコードの活用する。事例でみるプロセスレコードの読み方患者看護師関係における感情の取り扱いについて理解する。	・事例を読み解き、プロセスレコードを実際に書いてみる。 ・プロセスレコードが自己の言葉や態度の振り返りであることを理解できる。 ・転移、逆転移、アンビバレンについてを説明する。	
4	前期	ケアの人間関係4 関係の視点からみた困難事例 SST動画、実際の現場でのSSTについて理解する。	・事例を読んで理解を深める。 ・チーム医療、カンファレンスの利点を知る。 ・SSTを述べる。	
5	前期	精神科における入院治療1 精神保健福祉法による入院形態について理解する。	精神保健福祉法における入院形態の特徴を述べる。	
6	前期	精神科における入院治療2 精神科病棟の特殊性について理解する。	精神科病棟と一般病棟の違い、区分と特徴を述べる。	

7	前期	精神科における入院治療3 治療プログラムについて理解する。	精神科アセスメントを述べる。 精神科訪問看護 他職種連携の利点を学ぶ。	吉田 圭子
8	前期	精神科における身体ケア 精神科治療に伴う身体ケアについて 理解する。	精神科の特性を理解した身体ケアを学ぶ。 睡眠障害のアセスメントを学ぶ。	
9	前期	安全をまもる1 精神科におけるリスクマネジメントにつ いて理解する。	安全と人権 安全と治療 療養環境の整備 危 険物への対処を述べる。	
10	前期	安全をまもる2 精神科におけるリスクマネジメントにつ いて理解する。	精神保健福祉法における行動制限を述べる。	
11	前期	安全をまもる3 精神科におけるリスクマネジメントにつ いて理解する。	暴力への対応を学ぶ。 CVPPPを学ぶ。	
12	前期	リエゾン精神看護 リエゾン看護について理解する。	リエゾンナースの役割 活動を述べる。	
13	前期	災害時における心のケア 災害における心のケアを理解する。	DPAT 東日本大震災から学ぶ。	
14	前期	看護師のメンタルヘルス 看護師のメンタルヘルスを理解する。	看護師の感情の管理 対処方法を学ぶ。	
15	前期	1)授業総括 2)科目試験(60分)		
成績評価方法	筆記試験(100%)			
準備学習など	精神科病棟をイメージできない場合は、精神科病棟を題材にした、映画や本に触れてください。 い。日頃から、保健 医療 福祉 障害に関連した報道に関心を持って、情報収集してください。			
関連科目				
留意事項				

学科・学年	看護科 2年次
科目名	こころを支えるⅡ 社会で暮らす
担当者	内山 政一
単位数(時間数)	1単位 (15時間)
学習方法	講義、グループワーク
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学① 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学② 精神看護の展開 医学書院

<p>授業概要と目的</p> <p>社会復帰・社会参加の基本と働きかけとして、精神科リハビリテーションの概念と基礎など、社会的側面からアプローチするケアや支援について学習する。これらの理解を深め、地域での自立、統合への支援の目的と種類、及び、支援の方法を学ぶ。また、家庭・学校・職場における精神看護やメンタルヘルスの概念と目的を理解し、教育的介入の方法と心理的支援のあり方を学ぶ。地域における精神科領域での自殺企図や自傷行為の防止や衝動コントロールの方法、アルコール依存のケアやボーダーライン対応など、安全管理の目的と方法について学ぶ。</p> <p>看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。</p> <p>関連する学科のDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様性や柔軟性を備えた人間性と科学的根拠を用いた臨床判断能力</li> <li>・看護の場における健康上の課題を明確にし、看護実践できる能力</li> <li>・チーム医療の中で多職種と連携し、看護師の役割を果たす能力</li> <li>・社会の動向を意識し、専門職業人として学び続け未来を創造できる能力</li> </ul>
--

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	全期	「精神科リハビリテーションの概念と社会的側面からの理解(1)」 ・精神科リハビリテーションの概念について理解できる。	「精神科リハビリテーションの概念と基礎」 ・精神科リハビリテーションの概念を説明できる。	内山 政一
2	全期	「精神科リハビリテーションの概念と社会的側面からの理解(2)」 ・地域で生活する対象へのリハビリテーションについて理解できる。	「病院と地域をつなぐ役割のリハビリテーション」 ・精神科デイケアについて説明できる。	
3	全期	「地域で生活するための支援(1)」 ・病院と地域をつなぐ看護の役割について理解できる。	「事例検討」 ・事例検討を通して対象に必要な退院支援について考え、語る事ができる。	
4	全期	「地域で生活するための支援」 ・地域生活を支えるシステムと社会資源について理解できる。	「障害者総合支援法と法に基づくサービス」 ・障害者総合支援法の分類を説明できる。 「精神障害者保健福祉手帳に基づくサービスとその他の生活保障」 ・障害福祉サービス、地域生活支援事業 地域相談支援、その他の社会資源について説明できる。	

5	全期		「インフォーマルサポート」 ・インフォーマルサポートについて説明できる。	
6	全期	「家庭・学校・職場における精神看護」 ・家庭・学校・職場におけるメンタルヘルスについて理解できる。	「家庭・学校・職場における精神看護・メンタルヘルスの概念・目的」 ・家庭・学校・職場におけるメンタルヘルスの概要について説明できる。	
7	全期	「地域での安全管理」 ・地域での事故防止の取組を理解する。 ・生活に関する援助について理解する。	「事故防止・生活に関する援助」 ・地域での事故防止の取組について説明できる。 (1) 自殺企図・自傷行為の防止 (2) 他者への攻撃的行動・暴力の防止 (3) 衝動コントロール (4) アルコール依存へのケア (5) ボーダーライン ・生活に関する援助について説明できる。	内山 政一
8	全期	科目試験(45分)		
成績評価方法		筆記試験(100%)		
準備学習など				
関連科目				
留意事項				

学科・学年	看護科 2年次
科目名	こころを支えるⅢ 事例から学ぶ
担当者	左合 伸枝
単位数(時間数)	1単位 (15時間)
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学① 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学② 精神看護の展開 医学書院 精神看護ぜんぶガイド 照林社

<p>授業概要と目的</p> <p>この科目では精神障害をもつ対象の看護に必要な基盤となる知識と考え方および看護過程の展開について学ぶ。精神科領域で多く出会う精神障害の事例を用いて、オレム-アンダーウッド理論のセルフケアについてアセスメントを行い、精神障害をもつ対象にとって必要な看護計画を立案できるように学習する。</p> <p>看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。</p>
<p>関連する学科のDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様性や柔軟性を備えた人間性と科学的根拠を用いた臨床判断能力</li> <li>・看護の場における健康上の課題を明確にし、看護実践できる能力</li> <li>・チーム医療の中で多職種と連携し、看護師の役割を果たす能力</li> </ul>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	後期	「事例展開の実際」① セルフケア理論による看護過程の概要を理解する。	「精神障害とセルフケア」 オレム-アンダーウッド理論のセルフケアの考え方や看護過程を説明することができる。	左合 伸枝
2	後期	「事例展開の実際」② 事例対象の疾患と治療について理解する。	「事例対象の疾患・治療」 事例1を用いて事例対象を疾患と治療の側面から述べるができる。	
3	後期	「事例展開の実際」③ 家族を含めた看護の考え方を理解する。 精神科における身体のケアについて理解する。	「精神障害を持つ対象と家族」「身体のケア」 家族との関係性や家族システムを含めた看護について述べるができる。 精神科における身体のケアの意味や実際について述べるができる。	
4	後期	「事例展開の実際」④ 事例対象に合わせたアセスメントを考える。	「アセスメント」 ①空気・水・食物、②排泄 ③体温と個人衛生について事例対象に合わせてアセスメントを考えることができる。	
5	後期	「事例展開の実際」⑤ 事例対象に合わせたアセスメントを考える。	「アセスメント」 ④活動と休息のバランス ⑤孤独と付き合い、⑥安全を保つ能力について事例対象に合わせてアセスメントを考えることができる。	

6	後期	「事例展開の実際」⑥ 事例対象に合わせた看護計画を考える。	「看護計画」 対象のストレンクス、望み、悩みに着目しケアの方向性・優先順位を考えることができる。 グループワークを行い、実施するケアを具体的に決定することができる。	
7	後期	「事例展開の実際」⑦ 計画した看護援助をロールプレイし、援助内容・援助方法について検討する。	「計画実施」 看護計画を実施し、事例対象に合わせた援助内容・援助方法について検討することができる。	
8	後期	まとめの発表	「精神障害を持つ対象への回復に向けた援助とは」 計画実施後、グループで振り返りまとめた内容について発表することができる。	左合 伸枝
成績評価方法		演習課題等提出物評価(90%) 授業参加(10%)		
準備学習など		病態治療学IX(精神)、精神看護学概論、こころを支えるⅠ、Ⅱの学習内容を復習しておく。 必要時、上記の授業資料を持参する。		
関連科目				
留意事項				

学科・年次	看護科 2学年 前期
科目名	基礎看護学実習Ⅱ 看護過程の展開
担当者	学内担当教員、実習指導教員
単位数(時間数)	2単位(90時間)
授業形態	臨地実習施設
教科書・参考書	1.系統看護学講座 専門分野Ⅰ 看護学概論 医学書院 2.系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅰ・Ⅱ 医学書院 3.系統看護学講座 専門分野Ⅰ 臨床看護学総論 医学書院 4.看護がみえる Vol.1 基礎看護技術 メディックメディア 5.看護がみえる Vol.2 臨床看護技術 メディックメディア 6.看護がみえる Vol.3 フィジカルアセスメント メディックメディア

科目のねらい
<p>この科目では、はじめて疾患を抱えた患者を受け持ち、観察や日常生活援助を通して患者を理解し、必要な看護を考えていく。看護は観察で始まり観察に終わるといわれるように、患者の行動や反応を観察していく中で、気づく力を養っていききたい。そして得た情報に意味づけしていくことが看護の思考プロセスであることを理解する。また、観察結果や日常生活援助が患者に及ぼす影響を振り返りながら、科学的根拠を明確にし、看護の主体的活動の在り方を学ぶ。さらに、受け持ち患者の健康回復を願い看護実践をしていく中で、看護の質の保証への責務を自覚し、専門分野へつなげていききたい。担当教員と実習指導者は、臨床経験を活かし指導を行う。</p>

科目目標と学習内容							
科目目標1：患者に必要な観察を行い、情報収集し、全体像を把握する。							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>具体的目標</th> <th>実習内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1)全体像を理解する。</td> <td>           (1)身体的側面の理解            ①生理的ニード ②身体計測 ③身体機能の状態            ④病理的状态 ⑤フィジカルイグザミネーション            バイタルサイン・視診・聴診・打診・触診            (2)心理的側面の理解            ①行動的側面            身だしなみ、表情、行動や態度、感情の表出            ②認知的側面            注意力、集中力、見当識、記憶力            (3)社会的側面の理解            ①人間関係 家族、職場、学校、地域            ②生活様式 趣味、交際、宗教、政治            ③経済状況            (4)情報収集の手段            ①電子カルテ            ②看護師・医療従事者からの説明            ③患者・家族とのコミュニケーション            ④測定や観察、援助の実際を見学・一部実施         </td> </tr> <tr> <td>2)情報の確認と整理ができる。</td> <td>           (1)情報の整理            ①主観的情報・客観的情報            ②ゴードンの機能的健康パターン         </td> </tr> </tbody> </table>	具体的目標	実習内容	1)全体像を理解する。	(1)身体的側面の理解 ①生理的ニード ②身体計測 ③身体機能の状態 ④病理的状态 ⑤フィジカルイグザミネーション バイタルサイン・視診・聴診・打診・触診 (2)心理的側面の理解 ①行動的側面 身だしなみ、表情、行動や態度、感情の表出 ②認知的側面 注意力、集中力、見当識、記憶力 (3)社会的側面の理解 ①人間関係 家族、職場、学校、地域 ②生活様式 趣味、交際、宗教、政治 ③経済状況 (4)情報収集の手段 ①電子カルテ ②看護師・医療従事者からの説明 ③患者・家族とのコミュニケーション ④測定や観察、援助の実際を見学・一部実施	2)情報の確認と整理ができる。	(1)情報の整理 ①主観的情報・客観的情報 ②ゴードンの機能的健康パターン	
具体的目標	実習内容						
1)全体像を理解する。	(1)身体的側面の理解 ①生理的ニード ②身体計測 ③身体機能の状態 ④病理的状态 ⑤フィジカルイグザミネーション バイタルサイン・視診・聴診・打診・触診 (2)心理的側面の理解 ①行動的側面 身だしなみ、表情、行動や態度、感情の表出 ②認知的側面 注意力、集中力、見当識、記憶力 (3)社会的側面の理解 ①人間関係 家族、職場、学校、地域 ②生活様式 趣味、交際、宗教、政治 ③経済状況 (4)情報収集の手段 ①電子カルテ ②看護師・医療従事者からの説明 ③患者・家族とのコミュニケーション ④測定や観察、援助の実際を見学・一部実施						
2)情報の確認と整理ができる。	(1)情報の整理 ①主観的情報・客観的情報 ②ゴードンの機能的健康パターン						

科目目標2：得た情報から現状と今後の成り行きを予測してアセスメントし、看護問題を抽出する。	
具体的目標	実習内容
<p>1) 観察した結果やデータが健康にどのように影響しているかアセスメントする。</p> <p>2) 看護問題を明確化できる。</p> <p>3) 看護問題の優先順位を決定する</p>	<p>(1) アセスメント</p> <p>① 現状 ② 原因・誘因 ③ 成り行き ④ 看護の方向性</p> <p>(1) 問題の関連性</p> <p>① 関連図の説明</p> <p>(2) 看護問題の抽出</p> <p>(1) 優先順位の決定</p> <p>① マズローの基本的欲求</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生命維持・安全・安楽の保持</li> <li>・ その人らしさの保持</li> <li>・ 成長・発達の促進</li> </ul> <p>(2) 優先順位の決定理由</p>
科目目標3：患者の健康回復のための期待される成果を設定し、個別性を考慮した看護計画を立案する。	
具体的目標	実習内容
<p>1) 対象に応じた看護計画を立案する。</p> <p>2) 期待される成果の達成に向けて看護計画を立案する。</p>	<p>(1) 目標の決定</p> <p>① 期待される成果の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 患者が主語</li> <li>・ 現実的で達成可能である</li> <li>・ 測定できる、観察できる</li> <li>・ 達成可能な期日の設定</li> <li>・ 1つの文章に1つの成果を記す</li> </ul> <p>(1) 具体性のある看護計画の立案</p> <p>① 観察計画 (O-P)</p> <p>② 援助計画 (T-P)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5W1H</li> </ul> <p>③ 教育計画 (E-P)</p>



科目目標 5 : 実施した計画内容の妥当性を考え、評価・修正する。	
<p>具体的目標</p> <p>1) 実施した看護援助の妥当性や修正の根拠を報告する。 2) 目標達成に向け、計画内容の評価・修正をする。</p>	<p>実習内容</p> <p>(1) 実施した看護援助による影響の有無から援助の妥当性と修正の根拠を考える (1) 評価・修正の視点 ① 目標の達成度 ② 生活の充実度の改善 ③ 患者の満足度 ④ 修正した計画内容 ⑤ 追加した計画内容</p>
科目目標 6 : 看護を実践するために必要な看護師の責務を知る。	
<p>具体的目標</p> <p>1) 看護実践における看護師の責務を知る。 2) グループメンバーとしての役割を果たす。 3) 看護者としてふさわしい態度がとれる。</p>	<p>実習内容</p> <p>(1) 患者に看護を提供する責任 ① 安全 ② 安楽 ③ 倫理的配慮 ④ プライバシーの保護 ⑤ 説明と同意 ⑥ 自己研鑽 (1) グループメンバーとしての姿勢 ① 興味・関心を持って情報共有する姿勢 ② メンバー間の学びからの自己課題発見に向かう姿勢 ③ 共に学んで、高め合う姿勢 ④ グループメンバーとしての責任ある姿勢 ⑤ お互いに協力し合う姿勢 (1) 身だしなみ (2) 適切な言葉遣い (3) 患者を尊重した態度 (4) 指導を受ける際の態度 (5) 適切な報告・連絡・相談 (6) 記録物、提出物の期限厳守 (7) 主体的な学習 (8) 日々を振り返り、必要な学習を行い翌日の実習に活用 (9) 実習を俯瞰し自らの学びを発表</p>
評価方法	実習評価は、実習の取り組み状況、指定の記録用紙・レポート・実習に必要な学習などを総合して、評価基準に基づき臨地実習指導者・担当教員で協議の上、評価する。
学習準備など	事前のオリエンテーション・実習要綱を確認し、実習に臨むこと

学科・年次	看護科 2学年 後期
科目名	成人看護学実習 病気の予防をする
担当者	学内担当教員、実習指導教員
単位数(時間数)	1単位(45時間)
授業形態	臨地実習施設
教科書・参考書	1.系統看護学講座 専門分野 成人看護学概論 医学書院 2.系統看護学講座 専門分野 成人看護学②～⑭ 医学書院 3..看護が見える Vol.3 フィジカルアセスメント メディックメディア

科目のねらい
生活習慣病の予防は、健康で幸せな人生を過ごすためには必要不可欠であり、この実習を通し、健康診断を受ける対象を理解し、健康な社会生活を送ることができるための健康維持の方法や健康教育の実際を学ぶ。担当教員と実習指導者は、臨床経験を活かし指導を行う。

科目目標と学習内容	
科目目標 1 成人期にある対象の健康維持・健康管理について理解する。	
具体的目標	実習内容
1 対象の健康に対する意識を理解できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問診の見学</li> <li>・生活習慣改善の指導場面の見学</li> <li>・受診者とのコミュニケーション</li> </ul>
科目目標 2 健康診断の一連の流れを見学して、様々な健康診断の方法と得られた結果から健康管理の実際を理解する。	
1 生活習慣病と疾病の発症要因の関連性を認識できる。 2 生活習慣病予防のための健診内容および結果の取り扱いについて理解できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者からの健診センターの概要説明</li> <li>・健診結果の取り扱いについての説明</li> <li>・各検診（身体測定、血圧測定、視力測定、聴力測定、胸部X-P、エコー、心電図、婦人科検診など）の見学一部実施</li> <li>・受診者への心理的配慮</li> </ul>

科目目標 3 生活習慣病の悪化予防のために必要な健康教育を理解する。

<p>1 対象のセルフ能力の把握ができる。                  2 生活の自己管理に必要な日常生活指導について述べることができる。                  3 生活習慣病の一時予防における看護師の役割について理解できる。                  4 生活習慣病の二次予防における看護師の役割について理解できる。                  5 生活習慣病の三次予防における看護師の役割について理解できる                  6 健康教育のあり方について述べるができる。</p>	<p>1) セルフケア能力の把握                  ・日常生活の規制と阻害されるニーズ                  ・阻害する因子（闘病意欲、生活習慣、社会的役割、基礎知識）                  ・理解力                  ・家族の支援                  ・経済状況                  ・疾病・治療、今後の生活に対するの受け止め方と対処方法                  ・受容までの心理的プロセス：フィンク、コーン、ストレスコーピング教育活動の理解                  ・家庭での健康管理状況の把握                  ・就業状況の把握                  ・患者および家族の健康障害に対する認識の把握                  ・キーパーソンおよび家族の支援状況の把握                  ・家屋状況の把握                  ・年齢や発達段階に応じた生活・保健・退院指導                  2) 健康教育の内容の明確化                  3) 指導の実施</p>
---	---

科目目標 4 成人期にある対象に必要な学習支援を実施する。

<p>1 対象に必要な学習支援を実施することができる。</p>	<p>1) 実習中に得た情報から明確化した健康教育の内容を学習支援計画書として作成                  2) 学内でのロールプレイ                  ・学習支援するための適切な環境の設定                  ・話すスピード、声の大きさ、間の取り方、使用する媒体、実施時間、家族への配慮                  3) リフレクション</p>
---------------------------------	--

科目目標 5 看護職の専門的役割・他職種との連携について理解する。

<p>1 他職種との連携について述べるができる。                  2 他職種との連携における看護師の役割について述べるができる。</p>	<p>関係機関との連携、協力の理解                  ・社会資源の活用（経済的支援のための制度、地域で行われている支援、他職種との連携）</p>
---	--

<p>評価方法</p>	<p>実習評価は、実習の取り組み状況、指定の記録用紙・レポート・実習に必要な学習などを総合して、評価基準に基づき臨地実習指導者・担当教員で協議の上、評価する。</p>
<p>学習準備など</p>	<p>事前のオリエンテーション・実習要綱を確認し、実習に臨むこと</p>

学科・年次	看護科 2学年 後期
科目名	老年看護学実習 在宅や施設で暮らす高齢者を支える
担当者	学内担当教員、実習指導教員
単位数(時間数)	2単位(90時間)
授業形態	臨地実習施設
教科書・参考書	1.系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 2.系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院 3.山田律子他:老年看護過程 第4版 医学書院

科目のねらい
<p>高齢者の特徴を理解し、安全に生活するための基盤を整え、施設や在宅で生活する高齢者の健康状態に合わせた生活支援の目的とその方法を学ぶ。また、高齢者と接する中で、高齢者の置かれている状況に関心を持ち、誠実に向き合い、相手を尊重することの大切さを学ぶ。</p> <p>施設での看護職の役割をや施設内外でのチーム医療の実際を見学し、連携・協働の必要性について学ぶ。担当教員と実習指導者は、臨床経験を活かし指導を行う。</p>

科目目標と学習内容	
科目目標1：対象の加齢による変化と特徴を理解する。	
具体的目標	実習内容
1) 対象の身体的・精神的・社会的特徴を述べる。	(1)身体的変化 ① 防衛力 ② 予備力 ③ 適応力 ④ 回復力 (2)精神的特徴 ① 知能…知覚・言語・記憶・推理・判断などの認知機能 ② 人格…個人の持つ一貫した行動傾向や心理的特性 ③ 創造性…示唆やヒントから思いつき、発想する多様さ (3)社会的特徴 ① 役割の変化 (4)その人らしさ・多様性 ① 人生経験 ② 知恵・知識 ③ 困難を乗り越える力 ④ セルフケアの実施

科目目標2：対象に合わせたコミュニケーションを身に付ける。	
具体的目標	実習内容
1) 対象の特徴を踏まえ、対象に合わせたコミュニケーションを図る。	(1) 対象の特徴をふまえたコミュニケーション <ol style="list-style-type: none"> <li>① 言葉遣いの明確さ</li> <li>② 話す速度・声の大きさと穏やかさ</li> <li>③ 表現方法</li> <li>④ 筆談・文字表示の工夫</li> <li>⑤ 適切な補助具の使用</li> <li>⑥ 高齢者の心理の理解</li> <li>⑦ 目線の高さを合わせる</li> <li>⑧ 広い面積でそっと触れる</li> </ol> (2) 人生の先輩・年長者に対する態度 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 共感的態度</li> <li>② 言葉遣い</li> <li>③ 相手のペースに合わせた態度</li> <li>④ 生きてきた生活背景や時代背景の理解</li> <li>⑤ 高齢者の知恵など謙虚に学ぶ姿勢</li> </ol> (3) 対象への興味・関心 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 相手を理解しようとする姿勢</li> <li>② 対象の意思の優先</li> <li>③ 人生の最終ステージの捉え方</li> </ol>
科目目標3：施設を利用している対象の生活の特徴を理解し、その人のもてる力を活かした日常生活援助を実施する。	
具体的目標	実習内容
1) 対象が利用している施設の概要、生活環境を述べる。	(1) 施設の概要 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 理念・目的・目標、施設の特徴</li> </ol> (2) 施設内の組織、体制の役割 (3) 施設・居室の構造 (4) 施設利用の目的と特徴 (5) 利用者の生活環境 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 居室の状況</li> <li>② 人的環境</li> <li>③ プライバシー</li> <li>④ 安全、安楽な生活面での環境</li> <li>⑤ 居室を構成する物品</li> </ol> (6) 一日の流れ (7) 行事・レクリエーション (8) デイケア

具体的目標	実習内容
2) 対象の健康状態、セルフケア能力を述べる。	(1) 対象の身体機能のアセスメント ① 老化による機能低下 ② 健康状態 ③ BADL、IADLの状態 ④ セルフケア能力 ⑤ 健康維持のための工夫 ⑥ 依存によるADLの低下状況
3) 対象に合わせた日常生活援助を実施する。	(1) 対象のセルフケア能力を活かし、QOLを考えた援助 ① 食事、排泄、基本動作と姿勢、清潔、衣生活、生活リズム、環境調整、コミュニケーション ② 日常生活の維持及び拡大のための指導 ・リハビリテーションへの参加 ③ レクリエーション ・生きがいや楽しみ、趣味への援助 ・アクティビティ参加 (2) 生活環境の調整 ① 生活習慣 ② ADLに合わせた環境 ③ 安全に配慮した環境 ・転倒・転落予防 ・感染予防 (3) 対象の健康状態に合わせた医療的援助 (4) 対象の適応力を踏まえた援助と自立機能訓練 (5) 対象の生活史・価値観・自尊心への配慮 (6) 強みを活かした援助
科目目標4：在宅で生活する高齢者の地域コミュニティの役割を理解する。	
具体的目標	実習内容
1) 在宅で生活する高齢者の地域コミュニティの役割を述べる。	(1) 地域コミュニティを支えている機関 ① 地域のかかわり ② 行政のかかわり (3) 地域コミュニティの役割 ① 地域コミュニティの目的 ② 地域コミュニティへの参加への動機 ③ 地域コミュニティへの参加の効果

科目目標5：認知症をもつ高齢者にとって環境が及ぼす影響と必要な支援について理解する。	
<p>具体的目標</p> <p>1) 認知症をもつ高齢者に影響を及ぼす環境を述べる。</p> <p>2) 認知症をもつ高齢者に配慮した支援を述べる。</p>	<p>実習内容</p> <p>(1) もの忘れセンターの概要</p> <p>① 理念・目的・目標、特徴</p> <p>(2) 施設・居室の構造</p> <p>(3) 利用者の目的と特徴</p> <p>(4) 利用者の生活環境</p> <p>① 居室の状況</p> <p>② 人的環境 (同室者、面会人、施設職員等)</p> <p>③ プライバシー、安全・安楽な生活面での環境</p> <p>④ 居室を構成する物品</p> <p>⑤ 共有スペースの特徴</p> <p>(5) 一日の流れ</p> <p>(6) 行事・レクリエーション・リハビリテーションプログラム</p> <p>(7) 利用者に配慮した支援</p> <p>① 見当識への支援</p> <p>② 機能的な能力への支援</p> <p>③ 環境における刺激の質と調整</p> <p>④ 安全と安心への支援</p> <p>⑤ 生活の継続性への支援</p> <p>⑥ 自己選択への支援</p> <p>⑦ プライバシーの確保</p> <p>⑧ ふれあいの促進</p>
科目目標6：高齢者をサポートするための多職種との連携・協働の実際を見学しチーム医療における看護師の役割を理解する。	
<p>具体的目標</p> <p>1) 高齢者をサポートするための多職種との連携・協働の仕組みを述べる。</p> <p>2) 保健医療福祉チームにおける看護師の役割について述べる。</p>	<p>実習内容</p> <p>(1) 多職種の役割と機能の把握</p> <p>① 福祉職：介護職、社会福祉士</p> <p>② 医療職：医師、リハビリテーション関連職 管理栄養士</p> <p>(2) 保健医療福祉チームとの連携の実際</p> <p>① 施設での多職種の連携・協働</p> <p>② ケアカンファレンス</p> <p>(3) 認知症サポートの機能と役割</p> <p>(4) 地域で生活する高齢者のサポート社会システム (コミュニティセンター)</p> <p>(1) 保健医療福祉チームにおける看護師の役割</p> <p>① 患者・利用者・家族・コミュニティ中心</p> <p>② 職種間コミュニケーション</p> <p>③ 自職種をかえりみる</p> <p>④ 他職種を理解する</p> <p>⑤ 職種役割をまっとうする</p> <p>⑥ 関係性にはたらきかける</p>
評価方法	実習評価は、実習の取り組み状況、指定の記録用紙・レポート・実習に必要な学習などを総合して、評価基準に基づき臨地実習指導者・担当教員で協議の上、評価する。
学習準備など	事前のオリエンテーション・実習要綱を確認し、実習に臨むこと

学科・年次	看護科 2学年 後期
科目名	小児看護学実習Ⅰ その子らしく育つを学ぶ
担当者	学内担当教員、実習指導教員
単位数(時間数)	1単位(45時間)
授業形態	臨地実習施設
教科書・参考書	1.統看護学講座 専門分野 小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院 2.系統看護学講座 専門分野 小児臨床看護各論 小児看護学② 医学書院

科目のねらい
健康なこどもの保育活動の実際及び学童期のこどもの学校生活に参加し、その子らしく育つためにこどもの成長発達や生活に応じた具体的な援助や支援の目的と方法を学ぶ。担当教員と実習指導者は、臨床経験を活かし指導を行う。

保育園実習(27時間)	
科目目標1：子どもの健やかな成長発達を促すための保育環境を理解する	
具体的目標	実習内容
1) 子どもが健やかに育つための保育環境を述べる 2) 子どもの安全を守るための保育環境を述べる 3) こどもの健康管理の方法を述べる。	(1) 保育園の概要 ① 保育理念、保育方針 ② 保育目標、保育体制 (1) 保育園の構造や設備環境 ① 園の構造・園庭・遊具 ② 設備:洗面所・トイレ・階段・扉・柵・床・柵 (2) 事故防止 ① 保育士の体制 ②入園者の管理 ③ 送迎、入園者の管理 (3) 感染予防対策 ① 子どもの感染予防策 ② 消毒・換気、玩具の衛生 ③ 昼食・おやつ等の食器等の取り扱い ④ 保育士・職員の感染予防 (1) 園内での健康管理の実際 ① 送迎時の健康の確認場面の見学 ② 保育中のこどもの観察・お便り帳 ③ 体調不良時の対応 ④ 熱中症対策 (2) 感染予防 ① 手洗い・うがい・歯磨き・マスク
科目目標2：子どもの成長発達の特徴を理解する。	
具体的目標	実習内容
1) 乳幼児期の子どもの成長発達の特徴を述べる	(1) 乳幼児期の子どもの成長発達 ① 形態的特徴 ② 機能的発達 運動機能、認知・言語・コミュニケーション能力、社会性 (2) 発達段階に合った成長発達の度合いと個人差 ① 成長発達の度合いの観察 ② 個人差の理解 (3) 基本的な生活習慣の獲得状況 ① 食事 ② 排泄 ③ 睡眠(午睡を含む) ④ 清潔 ⑤ 衣服の着脱

科目目標3：子どもの成長・発達に応じたコミュニケーションを実施する。	
具体的目標	実習内容
1) 成長・発達に応じたコミュニケーションをとる	(1) 乳幼児期における認知・言語・コミュニケーション能力、社会性の発達の観察 (2) 成長発達に合わせ、子どもが理解できる言葉の選択、非言語コミュニケーションの活用 (3) 遊びを活用してコミュニケーションをとる
科目目標4：子どもの成長・発達に応じた日常生活の援助を実施する。	
具体的目標	実習内容
1) 子どもの日常生活の確立状況を把握し、保育士とともに日常生活援助を行う。  2) 遊びを通して成長発達を促す支援をする  3) 援助場面から子どもへの自己の関わりを振り返る	(1) 子どもの日常生活援助 ① 基本的な生活習慣の獲得支援 ・ 食事：昼食、おやつ、偏食・アレルギーの対応 ・ 排泄：トイレ誘導、おむつ交換、排泄の自立への援助 ・ 睡眠：午睡の意義、午睡の状況・促し方 ・ 清潔：清潔行為、手洗い、うがい・歯磨き ・ 更衣：衣服の着脱・選択・調整 ・ しつけ (2) 家庭での生活 家での様子、睡眠時間、頑張っていること、できるようになったこと等 (1) 子どもの遊び ① 発達段階に合わせた遊び ② 各発達段階で使用する遊具 玩具の種類の違い ③ 各発達段階における遊びに対する興味・関心、集中力の違い (2) 遊びの支援 ① 各発達段階の子どもの遊ばせ方 ② 集団への働きかけ ③ 遊びの中のトラブル時の関わり (3) デイリープログラムの参加 ① 散歩 ② 誕生日会 (1) 実際の関わりの場面をリフレクションする
科目目標5：子どもの尊厳と権利を尊重した行動をとる	
具体的目標	実習内容
1) 子どもに対して倫理原則に則った行動をする	(1) 尊厳と権利を守る接し方 ① 笑顔で子どもに接する ② 子どもに平等に接する ③ 子どもの頑張りを認める ④ 子どもの話を最後まで聞く ⑤ 子どもとの約束を守る

小学校実習（18時間）	
科目目標1：学童期の子どもたちの健全な発育を促す学校環境が理解できる。	
具体的目標	実習内容
1) 学童期の子どもたちの発育を促すための施設の特徴を述べる	(1) 小学校の教育目標 教育方針、重点目標 (2) 小学校内の環境 ① 建物・校庭・運動施設 ② 設備：洗面所・トイレ・階段・床・柵など ③ 教室・特別教室 ④ 保健室
科目目標2：学童期の子どもたちの成長発達を促す健康支援、教育支援を理解できる。	
具体的目標	実習内容
1) 健康な学童期の子どもたちの健康管理の方法を述べる  2) 健康な学童期の子どもたちの教育支援の実際を述べる	(1) 学校での健康管理の実際 ① 健康診断 ② 感染症対策 ③ こころの関わり ④ 給食 (2) こどもの生活習慣の自立への支援 ① 食事 ② 睡眠 ③ 学習習慣 ④ その他 (3) 保護者とのかかわり (1) 学年による時間枠の設定 (2) 学習内容の設定 ① 言葉の選択 ② 集中時間、着席時間と工夫の実際 (3) 学年によるこどもの反応の違い (4) 放課や授業以外の時間の過ごし方
科目目標3：学童期の子どもたちの低学年と高学年の成長・発達の違いを理解できる。	
具体的目標	実習内容
1) 学童期の学年による成長発達の違いを述べる	1) 学童期の低学年と高学年の子ども ① 形態的特徴の違い ② 機能的発達の違い ③ 言葉、言動の表現 ④ 認知、理解能力 ⑤ 集団生活でのルール ⑥ 子ども同士の関係性 ⑦ 心の発達と問題
科目目標4：子どもたちの尊厳と権利を尊重した行動をとる	
具体的目標	実習内容
1) 子どもたちに対して倫理原則に則った行動をする	1) 尊厳と権利を守る接し方 ① 笑顔で子どもたちに接する ② 子どもたちに平等に接する ③ 子どもたちの頑張りを認める ④ 子どもたちの話を最後まで聞く ⑤ 子どもたちの約束を守る
評価方法	実習評価は、実習の取り組み状況、指定の記録用紙・レポート・実習に必要な学習などを総合して、評価基準に基づき臨地実習指導者・担当教員で協議の上、評価する。
学習準備など	事前のオリエンテーション・実習要綱を確認し、実習に臨むこと

学科・年次	看護科 2学年 通年
科目名	母性看護学実習 I 生と性を学ぶ
担当者	学内担当教員、実習指導教員
単位数(時間数)	1単位(45時間)
授業形態	臨地実習施設
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 母性看護学各論 医学書院

<p>科目のねらい</p> <p>セクシュアルリプロダクティブヘルス/ライツの観点から母性の概念とその特徴、母性看護の意義と役割を理解する。母性看護をとりまく日本の社会状況は、女性の生き方の変化、少子化、出生前診断などの倫理的問題やドメスティック・バイオレンス、不妊、高齢出産やハイリスク妊娠の増加など多くの課題がある。このような母性を取り巻く環境との関連から母性看護の対象者とその健康課題を理解し、実践活動につなげられるように学習する。女性の各ライフステージの特徴を理解し、セクシュアルリプロダクティブヘルス/ライツの観点から、人としての性や生命をつなぐ生殖、産む権利、産まない権利などの考え方や価値観を学び、多様な思い・考えから個別的な看護を実践する基礎的能力を養う。担当教員と実習指導者は、臨床経験を活かし指導を行う。</p>
--

科目目標 1：自己の思春期を振り返り、中学生像を考える。	
<p>具体的目標</p> <p>1) 自己と他者の二次性徴（身体的変化および心理的变化）について比較し、共通・相違について述べるができる。</p> <p>2) 思春期にある中学生像の実際を述べるができる。</p>	<p>実習内容</p> <p>(1) 自己の思春期の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二次性徴（身体的・心理的变化）の起きた時期と変化の捉え方</li> <li>・二次性徴に伴う悩みや心配</li> <li>・人間関係での悩みや不安</li> </ul> <p>(1) 思春期における中学生の特徴</p> <p>身体面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体バランス</li> <li>・身体機能状態</li> </ul> <p>心理面（行動的側面）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雰囲気</li> <li>・身だしなみ、服装、髪型</li> <li>・行動や態度、感情の表出</li> </ul> <p>心理面（認知的側面）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・注意力、集中力、記憶力</li> </ul> <p>社会面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友人関係、教員との関係、家族、外部者との関係</li> </ul> <p>(2) 自己の思春期時や実際の中学生の様子から、中学生像を考察する。</p>

科目目標 2：思春期における性教育の必要性を理解し、指導内容を考え実施できる。

具体的目標	実習内容
<p>1) 思春期における性教育の必要性について述べることができる</p> <p>2) 対象に応じた指導内容を立案することができる。</p> <p>3) メンバーと協力し、中学生に分かりやすい指導を行うことができる</p>	<p>(1) 思春期における性教育の必要性の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 思春期の時期に知っておきたかった事項</li> <li>・ 思春期であった自身に伝えたいこと</li> <li>・ 思春期にある中学生の性の悩みの予測</li> <li>・ 思春期にある中学生の知りたい性教育内容の予測</li> <li>・ グループ内で性教育を行う必要性の理解と共有</li> </ul> <p>(1) 中学校での性教育の実際の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生と性の学習の取り組みと、助産師の行う思春期学級との関係や違い</li> <li>・ 助産師の行う思春期学級の目的・内容の理解</li> <li>・ 看護学生が思春期教室を担当する意味の考察</li> </ul> <p>(2) 性教育（思春期教室）に向けての指導内容の立案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導内容の選定</li> <li>・ 指導案作成</li> </ul> <p>(1) 性教育（思春期学級）に向けての指導準備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導原稿の作成</li> <li>・ 指導媒体の作成</li> <li>・ 名札の作成</li> <li>・ リハーサル</li> </ul> <p>(2) 思春期学級の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 司会進行、説明者等役割分担</li> <li>・ グループ同士の協力、グループ内の協力</li> </ul>

科目目標 3：性被害の現状から、被害を受けた対象の健康問題について理解する。

具体的目標	実習内容
<p>1) 性被害の実態を述べることができる</p> <p>2) 性被害を受けた対象の健康問題等を述べることができる</p> <p>3) 性被害支援センターの役割を述べる ことができる。</p>	<p>(1) 性被害の実態について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ セクシュアルリプロダクティブヘルス/ライツ</li> <li>・ 性被害の実態（性暴力、ドメスティックバイオレンス、セクシュアルハラスメント等）</li> <li>・ 被害内容、相談内容</li> </ul> <p>(1) 性被害を受けた対象の身体的健康問題</p> <p>(2) 性被害を受けた対象の心理的・精神的健康問題</p> <p>(3) 性被害を受けた対象の社会的問題</p> <p>(4) 性被害を受けた対象の経済的問題</p> <p>(1) 設置主体</p> <p>(2) 支援内容</p> <p>(3) 支援方法とその実際</p> <p>(4) 支援における課題</p>

科目目標 4：性被害の実態から、自らの性や生命を守る方法や性被害者への支援策を考える。

具体的目標	実習内容
<p>1) 性や生命を守り性被害にあわないための方策を考えることができる。</p> <p>2) 性被害を受けた対象にどのような支援をすることが必要かを考察し、述べる ことができる。</p>	<p>(1) 自らの性や生命を守るための具体的な方法を考察</p> <p>(2) 被害者への対応や支援策の考察</p> <p>(3) (1) (2) についてグループで考えをまとめ発表</p>

科目目標5：生と性を学ぶ①②の実習を通し、セクシュアルリプロダクティブヘルス/ライツの視点から自己の母性看護の考えを述べる。

具体的目標	実習内容
1) 自己の母性看護観、性と生命についての考えを述べることができる。	(1)①②の実習をもとに、セクシュアルリプロダクティブヘルス/ライツの視点から自己の性に対する思い・考えを明確にするとともに生命の尊厳・生命倫理も含めた母性看護について、自己の看護観を考察 (2) 自己の母性看護観について発表

評価方法	実習評価は、実習の取り組み状況、指定の記録用紙・レポート・実習に必要な学習などを総合して、評価基準に基づき臨地実習指導者・担当教員で協議の上、評価する。
学習準備など	事前のオリエンテーション・実習要綱を確認し、事前準備をして実習に臨むこと

